

# 令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果と分析

令和7年10月

板橋区教育委員会事務局指導室

# 目 次

I	令和7年度 全国学力・学習状況調査の概要	1
1	調査の目的	
2	調査の対象学年、調査方式	
3	調査の内容	
4	調査実施日	
5	調査を実施した学校数及び対象児童・生徒数	
II	教科に関する調査結果	
1	平均正答率の比較	2
2	平均無解答率の比較	2
3	正答数分布・観点別正答率からみた分析及び考察	
(1)	国語	5
①	小学校	
②	中学校	
(2)	算数・数学	6
①	小学校	
②	中学校	
(3)	理科	7
①	小学校	
②	中学校	
4	各教科の結果の特徴	
(1)	小学校 国語・中学校 国語	8
(2)	小学校 算数・中学校 数学	12
(3)	小学校 理科・中学校 理科	16
III	児童・生徒質問紙に関する調査結果と正答率との関係性	
1	小学校	20
2	中学校	27
IV	学校質問紙に関する調査結果（全国との比較からみた分析及び考察）	
1	小学校	33
2	中学校	35
V	まとめ	37

# **I 令和7年度 全国学力・学習状況調査の概要**

## **II 教科に関する調査結果**

# I 令和7年度 全国学力・学習状況調査の概要

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- ・全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・教育施策や学校の取組改善を図ることを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査の対象学年、調査方式

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童・生徒

## 3 調査の内容

### (1) 教科に関する調査

(ア) 小学校調査は、国語、算数及び理科とし、中学校調査は、国語、数学及び理科とする。

なお、中学校調査の理科はCBT調査とする。

(イ) 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

(ウ) 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

### (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童・生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

## 4 調査実施日

令和7年4月17日（木）

## 5 調査を実施した学校数及び対象児童・生徒数

	実施学校数	実施対象 児童・生徒数
小学校	52校（全校）	3,765人（理科 3,766人）
中学校	22校（全校）	2,808人（理科 2,814人）

## Ⅱ 教科に関する調査結果

### 1 平均正答率の比較（令和7年度における板橋区・東京都・全国の正答率）

※ 国語、算数・数学、小学校理科の平均正答率を東京都・全国と比較した。

※ 中学校理科については、結果を各学校、教育委員会、都道府県ごとに IRT に基づいて算出し、全国平均を 500 を基準とした IRT スコアで東京都・全国と比較した。なお、令和4年度は IRT スコアではないため、令和4年度における差は平均正答率との差を記載している。

小学校		平均 正答率(%)		令和6年度 における差	令和5年度 における差	令和4年度 における差
国語	区	69	差			
	都	70	-1.0	±0	±0	-3.0
	国	68.8	+0.2	+2.3	+1.8	+0.4
算数	区	63	差			
	都	64	-1.0	-1.0	-1.0	-2.0
	国	58.0	+5.0	+3.6	+3.5	+1.8
理科	区	59	差			
	都	60	-1.0			-1.0
	国	57.1	+1.9			+0.7

中学校		平均 正答率(%)		令和6年度 における差	令和5年度 における差	令和4年度 における差
国語	区	56	差			
	都	57	-1.0	-1.0	-2.0	-2.0
	国	54.3	+1.7	+1.9	+0.2	-1.0
数学	区	51	差			
	都	53	-2.0	-1.0	-3.0	-3.0
	国	48.3	+2.7	+3.5	±0	-0.4
理科	区	497	差			
	都	506	-9			-3.0
	国	503	-6			-1.3

### 2 平均無解答率の比較（令和7年度における板橋区・全国の無解答率）

※国語、算数・数学、理科の平均無解答率を全国と比較した。

小学校		令和7年度		令和6年度		令和5年度		令和4年度	
国語	区	4.1	差	5.2	差	6.0	差	8.3	差
	都	4.2	-0.1	5.4	-0.2	6.3	-0.3	7.4	+0.9
	国	3.3	+0.8	4.2	+1.0	4.8	+1.2	5.7	+2.6
算数	区	3.7	差	3.7	差	3.8	差	4.7	差
	都	3.9	-0.2	3.8	-0.1	4.0	-0.2	4.0	+0.7
	国	3.6	+0.1	3.4	+0.3	3.4	+0.4	3.5	+1.2
理科	区	3.3	差					5.0	差
	都	3.8	-0.5					4.4	+0.6
	国	2.8	+0.5					3.6	+1.4

中学校		令和7年度		令和6年度		令和5年度		令和4年度	
国語	区	6.2	差	3.3	差	4.3	差	4.4	差
	都	5.9	+0.3	3.6	-0.3	4.2	+0.1	4.0	+0.4
	国	6.7	-0.5	3.9	-0.6	4.6	-0.3	4.3	+0.1
数学	区	9.6	差	9.8	差	9.5	差	11.3	差
	都	9.2	+0.4	9.9	-0.1	8.6	+0.9	9.9	+1.4
	国	10.6	-1.0	11.3	-1.5	9.6	-0.1	10.8	+0.5
理科	区	2.0	差					3.7	差
	都	1.8	+0.2					3.4	+0.3
	国	1.8	+0.2					3.4	+0.3

平均正答率・平均無解答率の比較

※小学校・中学校それぞれ、無解答率の高い問題の種類を取り上げた。（考察含む）  
網掛けの問題は、「4 各教科の特徴」にて詳細な分析を記載する。

教科	問題番号	問題の概要	評価の観点	問題形式	無解答率(%)
小学校 国語	3三 (2)	【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめて書く	思考・判断・表現	記述式	16.7
	2四ア	【ちらし】の下線部アを、漢字を使って書き直す（このみ）	知識・技能	短答式	6.5
	2四イ	【ちらし】の下線部イを、漢字を使って書き直す（あついで）	知識・技能	短答式	6.1
	2三	【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く	思考・判断・表現	記述式	5.4
	3三 (1)	【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する	思考・判断・表現	選択式	4.5
昨年と同様に、記述式問題を中心に無解答率が高く、特に資料を根拠に自分の考えをまとめる力や、調べたことを踏まえて表現する力が十分に育っていないことが分かる。今後は、基礎的な知識技能の定着に加え、日常の授業から「根拠を示してまとめる」練習を重ねると良い。また、短答式問題の無解答も見られることから、学習習慣や自信を支える指導も合わせて必要となる。					

小学校 算数	3(2)	$3/4 + 2/3$ について、共通する単位分数と、 $3/4$ と $2/3$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	思考・判断・表現	記述式	14.4
	3(3)	数直線上に示された数を分数で書く	知識・技能	短答式	8.4
	4(3)	はかりが示された場で、はかりの目盛りを読む	知識・技能	短答式	4.6
	3(4)	$1/2 + 1/3$ を計算する	知識・技能	短答式	4.5
	4(4)	10%増量したつめかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ	思考・判断・表現	選択式	4.5
分数や割合を扱った記述式の問題で無解答率が高い。抽象的な数量関係を理解し、それを自分の言葉で説明する力が十分に育っていないことが課題である。また、短答式でも数直線や割合の増減に関する問題に課題が見られる。これらは計算技能の不足だけでなく、数量関係をイメージとして捉え、筋道を立てて表現する経験が不足していることに起因していると考えられる。今後は、数直線や図、具体物を用いた表現活動を重視し、数量の関係を「説明する」学習を日常的に取り入れることが求められる。					

小学校 理科	3(4)	レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気づきを基に、見いだした問題について書く	思考・判断・表現	記述式	11.3
	1(2)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをまとめたわけについて、結果を用いて書く	思考・判断・表現	記述式	7.9
	4(1)	水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く	思考・判断・表現	短答式	6.9
	2(3)	ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く	知識・技能	短答式	3.4
	4(3) キ	水が陸から海へ流れていくことについて、水の行方と関連付けているものを選ぶ	知識・技能	選択式	3.4
	4(3) ク	海面水位の上昇について、水の温度による体積の変化を根拠に予想しているものを選ぶ	思考・判断・表現	選択式	3.4
観察や実験の結果を基に問題を見いだしたり、根拠を明確にして考えを書いたりする記述式で無解答率が高い。これは、実験結果をただ記録することにとどまり、「なぜそうなったか」「次に調べるべきことは何か」を考える習慣が十分に定着していないことを示している。課題は、科学的な見方・考え方を働かせ、結果から考察へとつなげる思考を促す点にある。今後は、実験後の振り返りを重視し、「気づき→問い→説明」の流れを繰り返す授業を通して、子ども自身が自信をもって言葉で表現できるようにすることが必要である。					

教科	問題番号	問題の概要	評価の観点	問題形式	無解答率(%)
中学校 国語	4一	手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する	思考・判断・表現	短答式	35.0
	3四	「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそうように考えた理由を書く	思考・判断・表現	記述式	22.6
	4二	手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見付けて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く	思考・判断・表現	記述式	17.0
	3二	「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く	思考・判断・表現	短答式	3.9
	2四	発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く	思考・判断・表現	記述式	2.8
手紙の下書きを推敲する問題や、場面の効果を理由付きで説明する問題で無解答率が高い。これは、文章を批判的に読み取り、適切な根拠を基に自分の考えを表現する力が十分に育っていないことを示している。また、短答式でも細部の推敲に注意が向かない傾向が見られる。課題は、情報や考えを基に書く活動へと展開し、その成果を再び読み返すことで自己の理解や表現を省察・修正するという『読み』と『書き』の相互循環を意識した学習が不足している点にある。今後は、多様な文章を比較して読み、複数の視点から考察する活動や、推敲のプロセスを繰り返し体験する授業を充実させることで、論理的かつ主体的に表現できる力を育成する必要がある。					

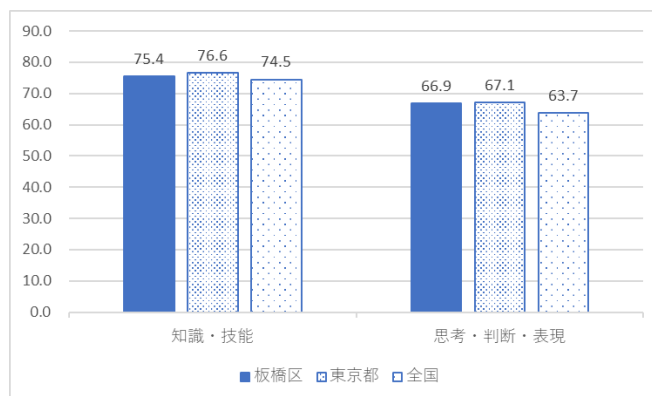
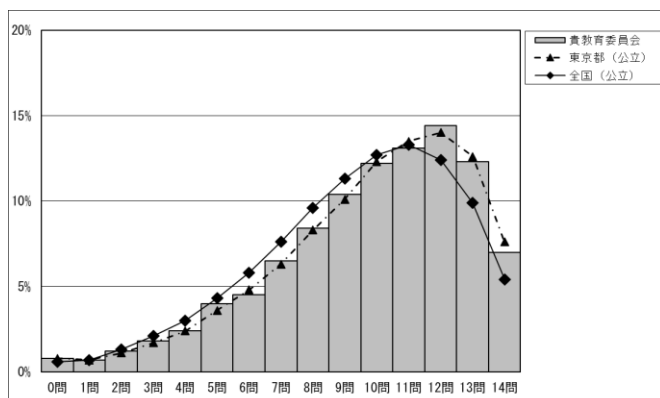
中学校 数学	8(2)	A駅から60.0km地点につくられる新しい駅の運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する	思考・判断・表現	記述式	30.2
	9(3)	平行四辺形ABCDの辺BC、DAを延長した直線上にBE=DFとなる点E、Fを取り、辺ABと線分FCの交点をG、辺DCと線分AEの交点をHとしたとき、四角形AGCHが平行四辺形になることを証明する	思考・判断・表現	記述式	29.3
	6(2)	$3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であるかを説明する	思考・判断・表現	記述式	22.3
	6(3)	連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることの説明を完成する	思考・判断・表現	記述式	14.7
	5	ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上25m未満の階級の相対度数を求める	知識・技能	短答式	9.4
証明や説明を求める記述式の問題で無解答率が顕著に高い。生徒が答えを導く過程を筋道立てて言語化することに困難を感じている点が課題である。これは、公式や解法を適用する練習に偏り、なぜそうなるのかを考えて説明する経験が不足していることに起因している。今後は、授業において「なぜ？」を問い返し、図や言葉で説明し合う対話的な活動を重視する必要がある。また、根拠を踏まえ、結論に至る過程を論理的につなげて説明させることで、数学的な思考力と表現力をバランスよく育成することが求められる。					

中学校 理科	1(6)	水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程における自分の振り返りを記述する	思考・判断・表現	記述式	9.6
	1(2)	「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？」という疑問を解決するための課題を記述する	思考・判断・表現	記述式	8.5
	5(2)	実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きているか判断し、原子や分子のモデルを移動させることで、その化学変化をモデルで表す	思考・判断・表現	記述式	7.8
	1(5)	塩素の元素記号を記述する	知識・技能	短答式	7.4
	8(1)	大地の変化に関する言い伝えを1つ選択し、その選択した言い伝えが科学的に正しいと判断するための理由を「地層を調べたときに何が分かればよいか」に着目して記述する	思考・判断・表現	記述式	3.2
探究の過程や化学変化を記述で説明する問題で無解答率が高く、観察事実をモデルや言葉に置き換えて表現することが課題となっている。知識の暗記に留まり、実験や観察を通じて得られた情報を自らの言葉で整理・解釈する力が十分に育っていないことが背景にある。今後は、探究活動において「問いを立てる」「結果を根拠に説明する」「モデルで表す」といった一連の流れを繰り返すことが重要である。その際、図示やモデル化を積極的に取り入れ、思考の可視化を図ることで、科学的な説明力を定着させていくことが求められる。					

### 3 正答数分布からみた分析及び考察

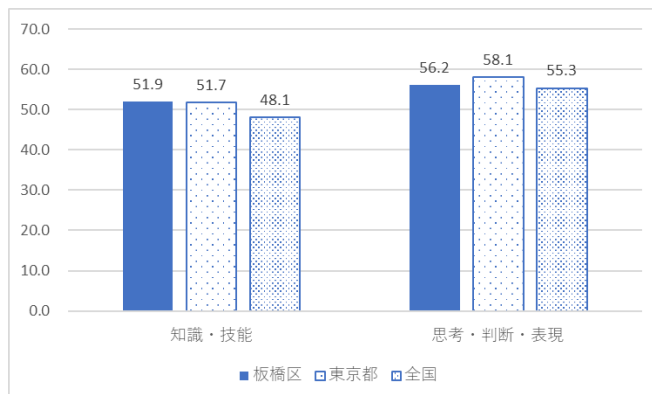
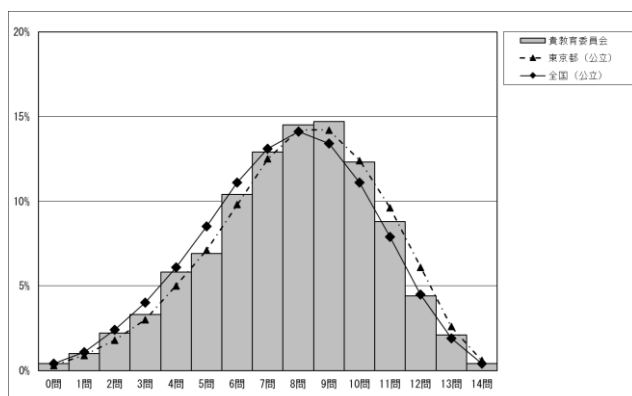
#### (1) 国語

##### ① 小学校 正答分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合） 観点別正答率グラフ



- 平均正答率は、全国より2.2 p高く、東京都より1.0 p低い。
- 中央値は、板橋区10.0、東京都10.0、全国10.0である。
- 平均正答数は、板橋区9.7、東京都9.8、全国9.4である。
- 観点別正答率は、以下のとおりである。
  - \*知識・技能の問題では、全国より0.7 p高く、東京都と同等である。
  - \*思考・判断・表現の問題では、全国より0.8 p高く、東京都より0.2 p低い。

##### ② 中学校 正答分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合） 観点別正答率グラフ

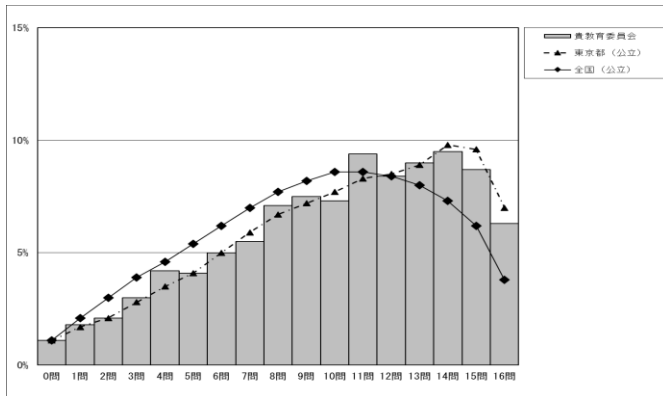


- 平均正答率は、全国より1.7 p高く、東京都より1.0 p低い。
- 中央値は、板橋区8.0、東京都8.0、全国8.0である。
- 平均正答数は、板橋区7.8、東京都8.0、全国7.6である。
- 観点別正答率は、以下のとおりである。
  - \*知識・技能の問題では、全国より3.8 p高く、東京都より0.2 p高い。
  - \*思考・判断・表現の問題では、全国より0.9 p高く、東京都より1.9 p低い。

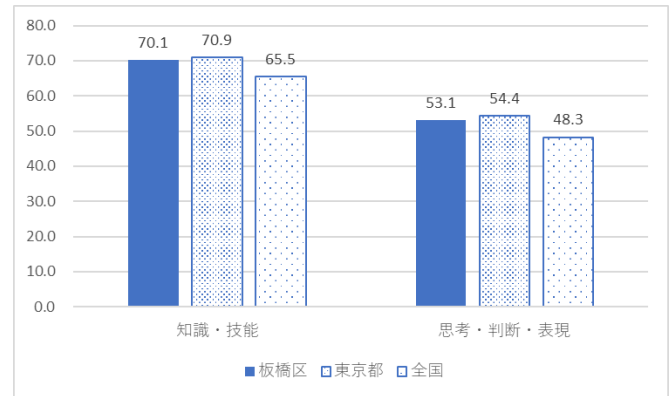


## (2) 算数・数学

### ①小学校 正答分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



### 観点別正答率グラフ



○平均正答率は、全国より5.0 p 高く、東京都より1.0 p 低い。

○中央値は、板橋区11.0、東京都11.0、全国10.0である。

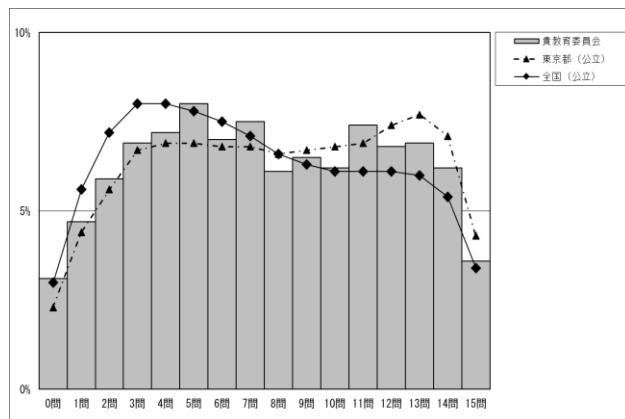
○平均正答数は、板橋区10.0、東京都10.2、全国9.3である。

○観点別正答率は、以下のとおりである。

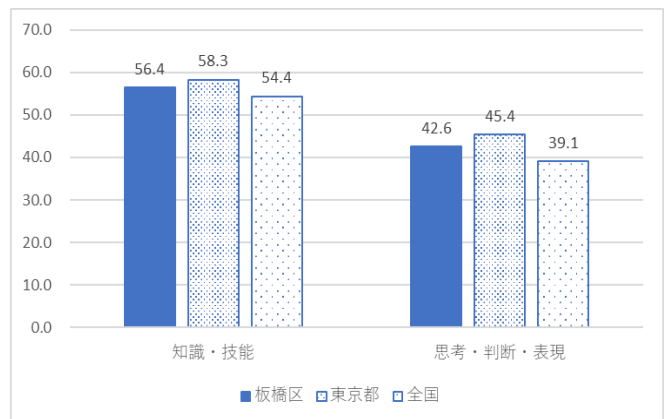
\*知識・技能の問題では、全国より4.6 p 高く、東京都より0.8 p 低い。

\*思考・判断・表現の問題では、全国より4.8 p 高く、東京都より1.3 p 低い。

### ②中学校 正答分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



### 観点別正答率グラフ



○平均正答率は、全国より2.7 p 高く、東京都より2.0 p 低い。

○中央値は、板橋区7.0、東京都8.0、全国7.0である。

○平均正答数は、板橋区7.6、東京都8.0、全国7.2である。

○観点別正答率は、以下のとおりである。

\*知識・技能の問題では、全国より2.0 p 高く、東京都より1.9 p 低い。

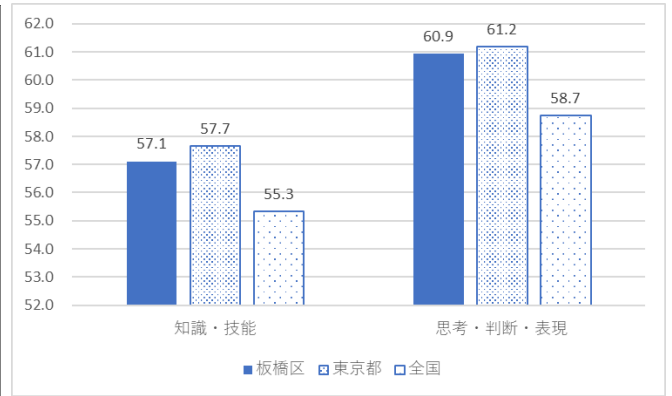
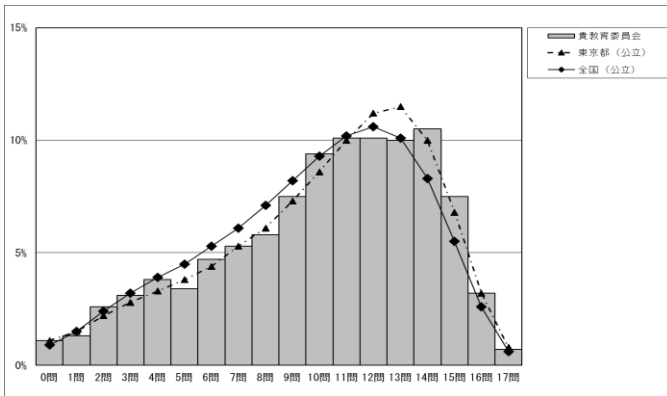
\*思考・判断・表現の問題では、全国より3.5 p 高く、東京都より2.8 p 低い。

## 正答数分布からみた分析及び考察（理科）

### (2) 理科

#### ①小学校 正答分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）

#### 観点別正答率グラフ



○平均正答率は、全国より 1.9 p 高く、東京都より 1.0 p 低い。

○中央値は、板橋区 11.0、東京都 11.0、全国 10.0 である。

○平均正答数は、板橋区 10.1、東京都 10.1、全国 9.7 である。

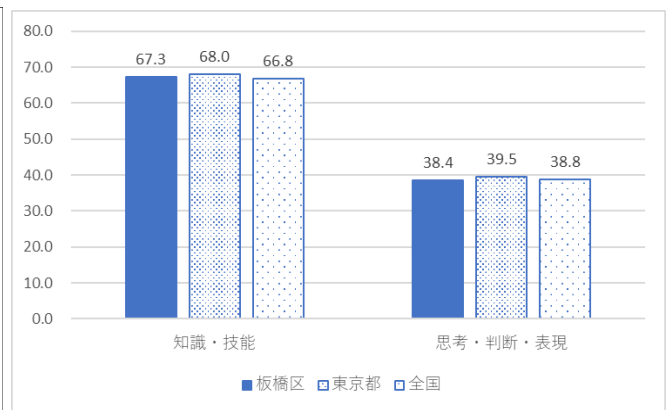
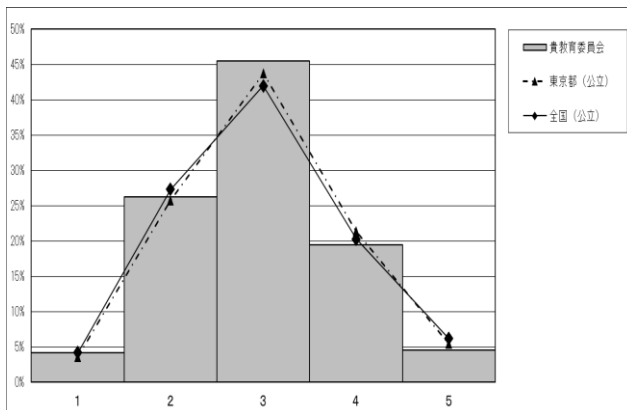
○観点別正答率は、以下のとおりである。

\*知識・技能の問題では、全国より 1.8 p 高く、東京都より 0.8 p 低い。

\*思考・判断・表現の問題では、全国より 2.2 p 高く、東京都より 0.3 p 低い。

#### ② 中学校 IRT バンド分布グラフ（横軸：IRT バンド 縦軸：割合）

#### 観点別正答率グラフ



○平均 IRT スコアは、板橋区 4.97、東京都 5.06、全国 5.03 である。

○平均正答数は、

①については、板橋区 3.0、東京都 2.9、全国 2.9 である。

②、⑨については、板橋区 1.9、東京都 2.1、全国 2.0 である。

⑤、⑧については、板橋区 1.8、東京都 1.9、全国 1.9 である。

③、⑥については、板橋区 2.3、東京都 2.3、全国 2.3 である。

④、⑦については、板橋区 2.4、東京都 2.3、全国 2.3 である。

○観点別正答率は、以下のとおりである。

\*知識・技能の問題では、全国より 0.5 p 高く、東京都より 0.7 p 低い。

\*思考・判断・表現の問題では、全国より 0.4 p 低く、東京都より 1.1 p 低い。

## 4 各教科の結果の特徴

### (1) 小学校 国語

#### ① 成果のあった問題

【1一】 正答率が都や全国の平均より高い問題（東京都から＋4.4 p）（全国から＋9.1 p）

正答率 板橋区 62.4% 東京都 58.0% 全国 53.3%

無解答率 板橋区 1.1% 東京都 0.8% 全国 0.5%

#### 問題の概要

【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する。

#### 学習指導要領における内容

〔第5・6学年〕思考力、判断力、表現力等

A 話すこと・聞くこと

ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。

#### 考察

- ・正答率が東京都を4.4 p、全国を9.1 p上回った。  
集めた材料を分類したり関連付けたりして、話し合い活動をする授業展開が実施されている成果だと考えられる。
- ・一方、無解答率は、全国の2倍以上である。

#### 授業革新のポイント

めあて

自力解決

集団解決

まとめ・振り返り

児童が自分の興味に応じてインタビューの相手等を選択できるようにし、相手から聞きたいことを明確にできるようにする。

図や思考ツールなどを用いて、集めた材料を内容ごとにまとめたり、互いに結び付けて関係を明確にしたりする。

【1三（1）】 正答率が都や全国の平均より高い問題（東京都から＋1.7 p）（全国から＋5.2 p）

正答率 板橋区 77.0% 東京都 75.3% 全国 71.8%

無解答率 板橋区 1.2% 東京都 0.9% 全国 0.6%

#### 問題の概要

【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部アのように発言した目的として適切なものを選択する。

#### 学習指導要領における内容

〔第5・6学年〕思考力、判断力、表現力等

A 話すこと・聞くこと

エ 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。

#### 考察

- ・正答率が東京都を1.7 p、全国を5.2 p上回った。
- ・小森さんは、働くことについて考えるために、バスの運転士から「仕事で大切にしていること」を引き出そうとしていることを理解した上で、「例えば」という語句を使って質問していることに着目し、解答することが求められる。

#### 授業革新のポイント

めあて

自力解決

集団解決

まとめ・振り返り

自分はどのような情報を求めているのか等を明確にし、聞くことに関する個人のめあてを設定する。

小森さんが「例えば」と質問し、運転士から安全に運転するための具体例を引き出したように、聞きたいことを引き出すために用いた語句とその働きについても振り返り、言葉の力を高めていくことが必要である。

## ② 課題のあった問題

【2四イ】 正答率が都や全国の平均より低い問題（東京都から－2.7 p）（全国から－2.7 p）

**正答率 板橋区 69.4% 東京都 72.1% 全国 72.1%**

無解答率 板橋区 6.1% 東京都 5.4% 全国 4.3%

### 問題の概要

【ちらし】の下線部イを、漢字を使って書き直す。（あつい日）

### 学習指導要領における内容

〔第5・6学年〕知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

エ 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。

### 考察

- ・正答率が、東京都・全国を2.7p下回った。
- ・正答である「暑い」の他に、「熱い」「厚い」等、同音異義語の誤答も多いと考えられる。
- ・無解答率が、記述式の設問3三（2）、短答式で同じく漢字を使って書き直す設問2四アに次いで、高い。

### 授業革新のポイント

めあて

自力解決

集団解決

まとめ・振り返り

文や文章を書く際に、同音異義語に注意するなど、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くようにすることが大切である。漢字について、自分の関心に応じて調べる活動を設定することも考えられる。

【3二（1）】 正答率が都の平均より低い問題（東京都から－1.7 p）（全国から＋2.1 p）

**正答率 板橋区 65.2% 東京都 66.9% 全国 63.1%**

無解答率 板橋区 1.1% 東京都 0.8% 全国 0.5%

### 問題の概要

【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する。

〔第5・6学年〕知識及び技能

(2) 情報の扱い方に関する事項

イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

### 考察

- ・正答率が、東京都を1.7p下回った。
- ・児童質問（29-3）「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか」においても、肯定的な回答の合計が東京都を2.5p下回っている。

### 授業革新のポイント

めあて

自力解決

集団解決

まとめ・振り返り

自分の考えや、収集した複数の情報を、丸や四角で囲んだり線でつないだりする活動を通して、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりする経験を積み重ねることが大切である。その際、実態に応じて、一人一台端末を活用するなど、児童が方法を自ら選択できるようにするとよい。

## 4 各教科の結果の特徴

### (1) 中学校 国語

#### ① 成果のあった問題

【3三】 正答率が都や全国の平均より高い問題（東京都から+2.4 p）（全国から+4.2 p）

正答率 板橋区 65.2% 東京都 62.8% 全国 61.0%

無解答率 板橋区 1.1% 東京都 0.8% 全国 0.8%

#### 問題の概要

「しきりと」の意味として適切なものを選択する。

#### 学習指導要領における内容

〔第1学年〕知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

ウ 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。

#### 考察

- ・ 正答率が東京都を 2.4 p、全国を 4.2 p 上回った。
- ・ 「しきりと」という語句になじみがある、または、物語文中の人物の動きの様子を自分なりに想像し語句の意味を理解したと考えられる。

#### 授業革新のポイント

めあて

自力解決

集団解決

まとめ・振り返り

生徒が初めて出会うであろう語句や、なじみのない語句を教師が意図的に取り上げ、語句の意味を確認したり、話や文章中でどのように使われているのかを押さえたりすることが大切である。

【2一】 正答率が都や全国の平均より高い問題（東京都から+0.1 p）（全国から+0.8 p）

正答率 板橋区 38.9% 東京都 38.8% 全国 38.1%

無解答率 板橋区 0.4% 東京都 0.4% 全国 0.3%

#### 問題の概要

スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する。

#### 学習指導要領における内容

〔第2学年〕思考力、判断力、表現力等

A 話すこと・聞くこと

ウ 資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。

#### 考察

- ・ 正答率が東京都を 0.1 p、全国を 0.8 p 上回った。
- ・ 生徒質問（29-4）「あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いませんか」では、肯定的な回答の合計が東京都・全国を上回っており、「よくあてはまる」の回答については全国より 10.1 p 高い。

#### 授業革新のポイント

めあて

自力解決

集団解決

まとめ・振り返り

話の要点や根拠を明らかにしたり、説明を補足したり、中心となる事柄を強調したりするなど、聞き手に分かりやすく伝えるという、資料や機器を用いる目的を生徒が理解できるようにすることが大切である。一人一台端末を活用し、他者の発表や作品をできるだけ多く参照したりコメント機能を用いて助言をしたりする活動を充実できるとよい。

## ② 課題のあった問題

【3ー】 正答率が都や全国の平均より低い問題（東京都から－3.4 p）（全国から－0.1 p）

**正答率** 板橋区 79.9% 東京都 83.3% 全国 80.0%

無解答率 板橋区 0.7% 東京都 0.6% 全国 0.5%

### 問題の概要

物語の始めに問いかけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する。

### 学習指導要領における内容

〔第1学年〕思考力、判断力、表現力等

C 読むこと

エ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。

### 考察

- ・正答率が、東京都を 3.4 p、全国を 0.1 p 下回った。
- ・誤答の解答類型で最も多かったのが1であることから、冒頭の三文が、榎木の実に関する読者の経験を問うものであるということは読み取れているが、それによる表現の効果について適切に捉えることができていないものと考えられる。

### 授業革新のポイント

めあて

自力解決

集団解決

まとめ・振り返り

文中に出て来る比喻や倒置などの表現の技法に着目し、それらが用いられる効果について話し合ったり、自分なりに意味付けをして、読んだり書いたりする活動が必要である。

【4ー】 正答率が都や全国の平均より低い問題（東京都から－3.8 p）（全国から－0.7 p）

**正答率** 板橋区 56.6% 東京都 60.4% 全国 57.3%

無解答率 板橋区 35.0% 東京都 31.4% 全国 33.5%

### 問題の概要

手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する。

### 学習指導要領における内容

〔第1学年〕思考力、判断力、表現力等

B 書くこと

エ 読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること。

### 考察

- ・正答率が東京都を 3.8 p、全国を 0.7 p 下回った。
- ・無解答率が 35.0%と、都や全国を上回っており、全設問の中でも最も高い。
- ・思考力、判断力、表現力等を問う問題ではあるが、漢字の誤りを直す内容であることから、知識及び技能と関係性が大きい設問である。

### 授業革新のポイント

めあて

自力解決

集団解決

まとめ・振り返り

文字や表記が正しいか、漢字と仮名の使い分け、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、文や段落の役割、段落の順序、語順などが適切かなど、自分が書いた文章について、日頃から読み返す習慣を付けることが大切である。

## 4 各教科の結果の特徴

### (2) 小学校 算数

#### ① 成果のあった問題

【2】(4) 正答率が都や全国の平均より高い問題（東京都から+1.0 p）（全国から+7.5 p）

**正答率 板橋区 44.5% 東京都 43.5% 全国 37.0%**

無解答率 板橋区 2.7% 東京都 3.2% 全国 2.7%

#### 問題の概要

基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。

#### 学習指導要領における内容

〔第5学年〕B 図形

(3) 平面図形の面積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積の計算による求め方について理解すること。

#### 考察

- ・ 正答率は44.5%と全体としては高くないが、東京都や全国と比較すると成果が見られた。無解答率も東京都を下回っている。
- ・ 図形を構成する要素などに着目して、基本図形の面積の求め方を基に、図形の面積の求め方を説明できるようにすることが大切である。

#### 授業革新のポイント

めあて

自力解決

集団解決

まとめ・振り返り

どのような図形に分割したのかを明らかにして、分割した図形の面積を求めるために必要な辺の長さなどを捉え、その図形の面積を求めること、その上で、五角形の面積の求め方を式や言葉を用いて表し、説明できるようにすることが大切である。

【1】(2) 正答率が都や全国の平均より高い問題（東京都から+0.7 p）（全国から+3.7 p）

**正答率 板橋区 34.7% 東京都 34.0% 全国 31.0%**

無解答率 板橋区 0.7% 東京都 1.2% 全国 0.9%

#### 問題の概要

目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。

#### 学習指導要領における内容

〔第3学年〕D データの活用

(1) ア(イ) 棒グラフの特徴やその使い方を理解すること。

〔第5学年〕D データの活用

(1) ア(ア) 円グラフや帯グラフの特徴とそれらの使い方を理解すること。

イ(ア) 目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し、その結論について多面的に捉え考察すること。

#### 考察

- ・ 正答率は34.7%と全体としては高くないが、東京都や全国と比較すると成果が見られた。無解答率は、全問題を通して最も低かった。
- ・ 35%の児童が正しく理解し、表現できている一方、解答類型を見ると、16%の児童が出荷量の増減を正しく判断できていなかった。

#### 授業革新のポイント

めあて

自力解決

集団解決

まとめ・振り返り

様々なグラフの特徴を理解し、目的に応じて複数のグラフから適切なグラフを選択してデータの特徴や傾向を捉え判断し、その判断の理由を他者に分かりやすく表現できるようにすることが重要である。

## ② 課題のあった問題

【3(4)】正答率が都や全国の平均より低い問題（東京都から－3.2 p）（全国から－1.1 p）

正答率 板橋区 80.2% 東京都 83.4% 全国 81.3%

無解答率 板橋区 4.5% 東京都 4.5% 全国 4.1%

### 問題の概要

異分母の分数の加法の計算をすることができかどうかをみる。

### 学習指導要領における内容

〔第5学年〕A 数と計算

(5) 分数の加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 異分母の分数の加法及び減法の計算ができること。

### 考察

- ・80%以上の児童が正答しているが、解答類型2と5の反応率の合計は6.5%あり、通分が正しくできていなかったり、分母と分子を単純に足し合わせたりしている児童が少なからずいることが課題である。
- ・異分母の分数の加法や減法の計算について、通分の意味を理解するとともに、その計算が確実にできるようにすることが重要である。

### 授業革新のポイント

めあて

自力解決

集団解決

まとめ・振り返り

同分母の分数の加法や減法の計算はどのように考えたのかを振り返り、単位分数の幾つ分という分数の意味を理解した上で加法や減法ができることを確認する場を設定する。

【4(4)】正答率が都より低い問題（東京都から－4.4 p）（全国から＋7.0 p）

正答率 板橋区 47.9% 東京都 52.3% 全国 40.9%

無解答率 板橋区 4.5% 東京都 4.2% 全国 4.1%

### 問題の概要

「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる。

### 学習指導要領における内容

〔第5学年〕C 変化と関係

(3) 二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係との比べ方を考察し、それを日常生活に生かすこと。

### 考察

- ・解答類型1の反応率が32.3%と高く、「10%増量」について、百分率で表された10%を0.1と捉えることはできているが、「増量後の量」が110%となることを捉えることはできていないと考えられる。

### 授業革新のポイント

めあて

自力解決

集団解決

まとめ・振り返り

- ・基準量を100%として10%や110%に当たる比較量を表すことで、「10%増量」について「増えた分」と「増量後の量」の違いを明らかにして、図と式や言葉を用いて説明し、数量の関係を捉えることができるようにすることが大切である。
- ・日常生活における割引や割増などの割合が用いられている場面を、割合の意味を基に捉えることができるようにすることが大切である。



## 4 各教科の結果の特徴

### (1) 中学校 数学

#### ① 成果のあった問題

【1】 正答率が都や全国の平均より高い問題（東京都から+2.2 p）（全国から+6.2 p）

正答率 板橋区 38.0% 東京都 35.8% 全国 31.8%

無解答率 板橋区 0.6% 東京都 0.7% 全国 0.7%

#### 問題の概要

事象を数や式を用いて考察する場面において、次のことができるかどうかをみる。

- ・事象の特徴を的確に捉えること
- ・素数の意味を理解していること

#### 学習指導要領における内容

〔第1学年〕A数と式

(1) 正の数と負の数について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 正の数と負の数の必要性和意味を理解すること。

#### 考察

- ・正答率は38%と全体としては高くはないが、東京都や全国と比較すると成果が見られた。無解答率も同様の傾向であった。一方で、解答類型から「1」を素数に含めた誤答が多くみられることから、素数に関して正しく理解できるよう指導する必要がある。

#### 授業革新のポイント

めあて

自力解決

集団解決

まとめ・振り返り

1から9までの自然数について、それぞれの約数を求め、1とその数以外に約数があるかどうかに着目して分類する活動を取り入れることが考えられる。

【6】(3) 正答率が全国の平均より高く（全国から+3.9 p）、

無解答率が低い問題（全国から-5.5 p）

正答率 板橋区 49.1% 東京都 52.5% 全国 45.2%

無解答率 板橋区 14.7% 東京都 15.3% 全国 20.2%

#### 問題の概要

目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる。

#### 学習指導要領における内容

〔第2学年〕A数と式

(1) 文字を用いた式について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(イ) 文字を用いた式を具体的な場面で活用すること。

#### 考察

- ・全体を通して正答率も低く、無解答率の高い問題であったが、全国の平均と比較すると成果のあった問題である。
- ・およそ半数の生徒が、ある事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明することができている。一方、正答の扱いではあるが、解答類型4のように、根拠とそれによって成り立つ事柄を記述していない解答が7.7%含まれていた。

#### 授業革新のポイント

めあて

自力解決

集団解決

まとめ・振り返り

「 $9(n+1)$ は9の倍数である。」のような表現が不十分な説明を取り上げ、「 $n+1$ は整数である」ことや「 $9(n+1)$ が $9 \times$  (整数)である」のような表現を用いて説明できるように指導することが大切である。その際、 $n$ が整数、 $1$ が整数であることから、整数どうしの和である $n+1$ が整数になることを確かめることも大切である。

## ② 課題のあった問題

【4】 正答率が都の平均より低い問題（東京都から－3.4 p）（全国から－0.2 p）

正答率 板橋区 34.5% 東京都 38.1% 全国 34.7%

無解答率 板橋区 7.6% 東京都 7.1% 全国 8.0%

### 問題の概要

関数を用いて事象を捉え考察する場面において必要となる、次のことができるかどうかをみる。

- ・数や式、図、表、グラフなどを活用して、数学的に処理すること
- ・一次関数  $y = ax + b$  について、変化の割合を基に、 $x$  の増加量に対する  $y$  の増加量を求めること

### 学習指導要領における内容

〔第2学年〕C 関数

- (1) 一次関数について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。  
ア次のような知識及び技能を身に付けること。  
（ア）一次関数について理解すること。

### 考察

- ・正答率は東京都より低く、全国からもやや低い問題である。
- ・解答類型3の誤答が最も多く、 $x = 2$  のときの  $y$  の増加量ではなく、 $y$  の値を求めたと考えられる。

### 授業革新のポイント

めあて

自力解決

集団解決

まとめ・振り返り

「 $x$  の増加量が2のときの  $y$  の増加量」と「 $x$  の値が2のときの  $y$  の値」を求める活動を取り入れ、 $x$  の増加量から  $y$  の増加量を求めることと、 $x$  の値から  $y$  の値を求めることの過程と結果を比べて、それらの違いを捉えられるようにすることが大切である。

【6】(2) 正答率が最も低かった問題（東京都から－2.7 p）（全国から＋4.3 p）

正答率 板橋区 30.0% 東京都 32.7% 全国 25.7%

無解答率 板橋区 22.3% 東京都 21.3% 全国 24.9%

### 問題の概要

式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。

### 学習指導要領における内容

〔第2学年〕A 数と式

- (1) 文字を用いた式について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。  
イ次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。  
（イ）文字を用いた式を具体的な場面で活用すること。

### 考察

- ・正答率は 30.0% と低く、無解答率は 22.3% と高い。式がどのような数量関係を表しているのかを読み取れていないことや、式から言葉、言葉から式のように双方向の変換ができていないことが考えられる。

### 授業革新のポイント

めあて

自力解決

集団解決

まとめ・振り返り

連続する二つの3の倍数を  $3n$ 、 $3n+3$  として和を計算した式である  $6n+3$  がどのような式に変形できるかを考察する場面を設定、さらに変形した式を確認した上で、この式からどのような数になるかを考察する場面を設定する。

## 4 各教科の結果の特徴

### (2) 小学校 理科

#### ① 成果のあった問題

【3】(4) 正答率が都や全国の平均より高い問題（東京都から+2.9 p）（全国から+6.4 p）

正答率 板橋区 36.3%（区内最高 66.7%） 東京都 33.4% 全国 29.9%

無解答率 板橋区 11.3% 東京都 14.0% 全国 11.4%

#### 問題の概要

レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる。

#### 学習指導要領における内容

〔第5学年〕 B 生命・地球

(1) 植物の育ち方について、発芽、成長及び結実の様子に着目して、それらに関わる条件を制御しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

イ 植物の育ち方について追究する中で、植物の発芽、成長及び結実とそれらに関わる条件についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること。

#### 考察

- ・ 正答率は 36.3%と全体としては高くはないが、東京都や全国と比較すると成果が見られた。無解答率も同様の傾向であった。
- ・ 差異点や共通点を基に問題を見だし、その内容を適切に表現することができているという問題解決の力が身に付いていると考えられる。

#### 授業革新のポイント

めあて

自力解決

集団解決

まとめ・振り返り

自然の事物・現象から問題を見いだすことができるように、観察や実験の結果を比較して、差異点や共通点を基に、具体的な条件に着目した問題を見いだす場面を設定する。

【4】(1) 正答率が都の平均より高い問題（東京都から+0.7 p）（全国と同等）

正答率 板橋区 50.6%（区内最高 70.4%） 東京都 49.9% 全国 50.6%

無解答率 板橋区 6.9% 東京都 7.8% 全国 6.1%

#### 問題の概要

水の温まり方について、問題に対するまとめを導きだす際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる。

#### 学習指導要領における内容

〔第4学年〕 A 物質・エネルギー

(2) 金属、水及び空気の性質について、体積や状態の変化、熱の伝わり方に着目して、それらと温度の変化とを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(イ) 金属は熱せられた部分から順に温まるが、水や空気は熱せられた部分が移動して全体が温まること。

#### 考察

- ・ 東京都と比較して、正答率が高く、無解答率も低かった。
- ・ «実験結果»に基づき正しい«結論»を導きだすことと、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討して、表現することができていると考えられる。

#### 授業革新のポイント

めあて

自力解決

集団解決

まとめ・振り返り

問題に対する結論を導きだす際、解決の方法が適切であったかを検討することが大切である。そのため、予想したことを確かめる方法になっているかを検討し、発想した解決の方法がその通りできていたか考えることが大切である。

## ② 課題のあった問題

【2】(3) 正答率が都の平均より低い問題（東京都から－2.6 p）（全国と同等）

正答率 板橋区 78.0%（区内最高 93.0%） 東京都 80.6% 全国 78.0%

無解答率 板橋区 3.4% 東京都 3.7% 全国 2.7%

### 問題の概要

電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることを知識が身に付いているかどうかをみる。

### 学習指導要領における内容

〔第5学年〕 A 物質・エネルギー

(3) 電流がつくる磁力について、電流の大きさや向き、コイルの巻数などに着目して、それらの条件を制御しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(イ) 電磁石の強さは、電流の大きさや導線の巻数によって変わることを。

### 考察

- ・電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることを知識として身に付けていることが求められる。
- ・どのように変えるかという具体的な表現がなく、単に「変える」という趣旨で解答した児童の割合が1.5%と、誤答の中でも比較的多かった。

### 授業革新のポイント

めあて

自力解決

集団解決

まとめ・振り返り

電磁石の強さは、電流の大きさや導線の巻数によって変わることを考察する際に、「巻数を増やす」などの条件を表す言葉や、「電磁石が強くなる」などの現象を表す言葉を使い分けて説明する。

【4】(2)エオ 正答率が都の平均より低い問題（東京都から－2.0 p）（全国から＋3.3 p）

正答率 板橋区 60.8%（区内最高 84.8%） 東京都 62.8% 全国 57.5%

無解答率 板橋区 2.3% 東京都 2.2% 全国 1.5%

### 問題の概要

水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる。

### 学習指導要領における内容

〔第4学年〕

A 物質・エネルギー

(2)ア(ウ) 水は、温度によって水蒸気や氷に変わることを。また、水が氷になると体積が増えることを。

B 生命・地球

(4)ア(イ) 水は、水面や地面などから蒸発し、水蒸気になって空気中に含まれていくことを。また、空気中の水蒸気は、結露して再び水になって現れることがあることを。

### 考察

- ・正答率において、全国の平均は上回ったが、東京都の平均よりは低く、無解答率もわずかなではあるが高かった。
- ・水の蒸発や結露に関係する自然の事物・現象について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解することが求められる。

### 授業革新のポイント

めあて

自力解決

集団解決

まとめ・振り返り

加熱をしなくても水が蒸発する場合を生活の中から探したり、低い温度で水が蒸発する場合と沸騰で蒸発する場合との差異点や共通点を整理したりすることを通して、水の状態変化について概念的に理解していくように指導する。

## 4 各教科の結果の特徴

### (2) 中学校 理科

#### ① 成果のあった問題

【1】(5) 正答率が都や全国の平均より高い問題（東京都から+4.9 p）（全国から+7.3 p）

正答率 板橋区 52.2%（区内最高 86.8%） 東京都 47.3% 全国 44.9%

無解答率 板橋区 7.4% 東京都 8.4% 全国 8.5%

#### 問題の概要

塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる。

#### 学習指導要領における内容

第1分野 (4) 化学変化と原子・分子

(ア) 物質の成り立ち

① 原子・分子

物質は原子や分子からできていることを理解するとともに、物質を構成する原子の種類は記号で表されることを知ること。

#### 考察

- ・正答率について、東京都や全国を上回る結果であった。無解答率についても、僅かではあるが、同様の傾向であった。
- ・2文字の元素記号について1文字目「大文字」、2文字目「小文字」で表すなど、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いていると考えられる。

#### 授業革新のポイント

めあて

自力解決

集団解決

まとめ・振り返り

スポーツ飲料や洗剤等の成分表示の中に元素記号が記載されていることがあることに気付かせ、身の回りの生活の中で元素記号が使われていることを実感させる学習場面を設定する。

【4】(1) 正答率が都や全国の平均より高い問題（東京都から+3.6 p）（全国から+4.7 p）

正答率 板橋区 55.1%（区内最高※56.9%） 東京都 51.5% 全国 50.4%

無解答率 板橋区 0.3% 東京都 0.2% 全国 0.1% ※予測正答率は除く

#### 問題の概要

ガス警報器の設置場所が異なる理由を考える学習場面において、実験の様子と、密度に関する知識及び技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈できるかどうかをみる。

#### 学習指導要領における内容

第1分野 (2) 身の回りの物質

(ア) 物質のすがた

㊦ 身の回りの物質とその性質身の回りの物質の性質を様々な方法で調べる実験を行い、物質には密度や加熱したときの変化など固有の性質と共通の性質があることを見いだして理解するとともに、実験器具の操作、記録の仕方などの技能を身に付けること。

#### 考察

- ・シャボン玉の浮き沈みの様子から、プロパンガスは空気より密度が大きく、都市ガスは空気より密度が小さいと捉えることができ、観察・実験の結果を、密度に関する知識及び技能と関連付けて、分析して解釈できていると考えられる。

#### 授業革新のポイント

めあて

自力解決

集団解決

まとめ・振り返り

観察・実験を行い、得られた結果が気体の性質と関連していることに気付くようにする。科学的に探究する上で、観察・実験の様子と理科で学習した知識及び技能を関連付けて、分析して解釈できるようにすることが大切である。

## ② 課題のあった問題

【5】(2) 正答率が都や全国の平均より低い問題（東京都から－4.1 p）（全国と同等）

正答率 板橋区 34.0%（区内最高※41.9%） 東京都 38.1% 全国 35.6%

無解答率 板橋区 7.8% 東京都 4.9% 全国 4.6% ※予測正答率は除く

### 問題の概要

化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる。

### 学習指導要領における内容

第1分野 (4) 化学変化と原子・分子

(イ) 化学変化

- ㊦ 化学変化2種類の物質を反応させる実験を行い、反応前とは異なる物質が生成することを見いだして理解するとともに、化学変化は原子や分子のモデルで説明できること、化合物の組成は化学式で表されること及び化学変化は化学反応式で表されることを理解すること。

### 考察

・二酸化炭素中におけるマグネシウムの燃焼を原子や分子のモデルで表すことや、化学反応式において原子や分子の数を最も簡単な整数比で表すこと、さらには化学変化を原子や分子のモデルを使って適切に表すことなどに課題があると考えられる。

### 授業革新のポイント

めあて

自力解決

集団解決

まとめ・振り返り

化学変化における「反応する物質」と「生成してできた物質」を整理した上で、「化学変化の前後で原子の種類は変わらず、原子の数も変化しない」という知識を確認し、化学変化を原子や分子のモデルを用いて考察させるなど微視的に事象を捉えることが大切である。

【3】(1) 正答率が都や全国の平均より低い問題（東京都から－2.8 p）（全国から－2.6 p）

正答率 板橋区 32.3%（区内最高※36.2%） 東京都 35.1% 全国 34.9%

無解答率 板橋区 0.3% 東京都 0.3% 全国 0.2% ※予測正答率は除く

### 問題の概要

仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することができるかどうかをみる。

### 学習指導要領における内容

第1分野 (3) 電流とその利用

(ア) 電流

- ㊦ 回路と電流・電圧回路をつくり、回路の電流や電圧を測定する実験を行い、回路の各点を流れる電流や各部に加わる電圧についての規則性を見いだして理解すること。

### 考察

・電圧の大きさが大きくなると、電流の大きさも大きくなることは理解していると考えられるが、電圧の大きさと電流の大きさは比例の関係にあるというオームの法則に関する知識及び技能が身に付いておらず、仮説が正しい場合の結果を適切に予想することに課題があると考えられる。

### 授業革新のポイント

めあて

自力解決

集団解決

まとめ・振り返り

測定値の関係性を見いだすために表やグラフなどを用いて表すよう指導する。表で示すのか、グラフで示すのか、両方用いて示すのかなど、どの方法で表現すれば良いかを議論することも大切である。また、結果から関係性を見いだすための時間を十分に確保することも大切である。

### **Ⅲ 児童・生徒質問調査に関する調査結果**

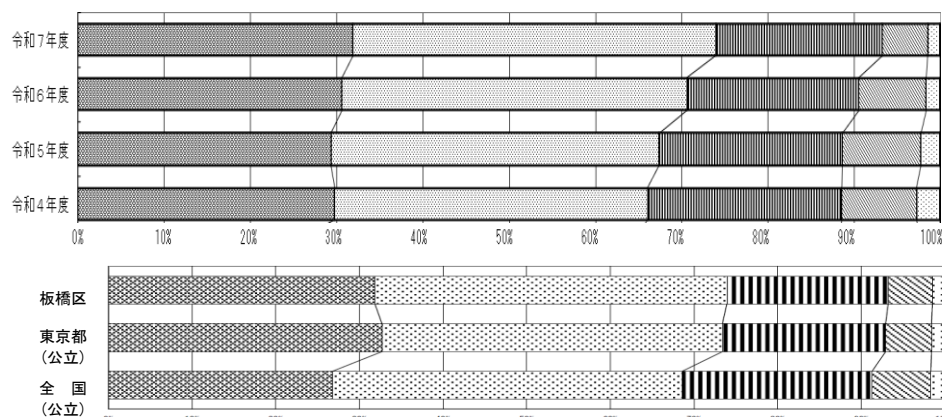
# 児童質問調査

## Ⅰ 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況

### (1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

【31】5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

□1.発表していた □2.どちらかといえば、発表していた □3.どちらかといえば、発表していなかった □4.発表していなかった □5.考えを発表する機会がなかった □その他 □無回答



経年変化 ↗

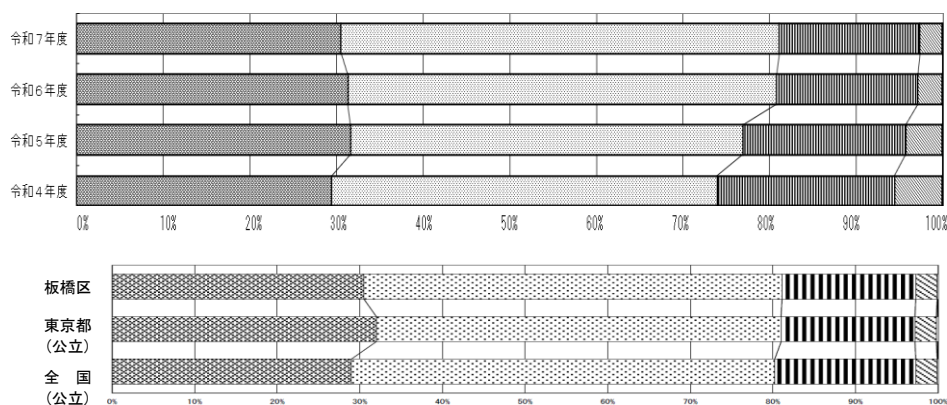
東京都 ≡ 板橋区

全国 < 板橋区

多くの児童が発表時に工夫を意識して取り組んでおり、主体的に伝える力の育成が進んでいる。

【32】5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

□1.当てはまる □2.どちらかといえば、当てはまる □3.どちらかといえば、当てはまらない □4.当てはまらない □その他 □無回答



経年変化 ↗

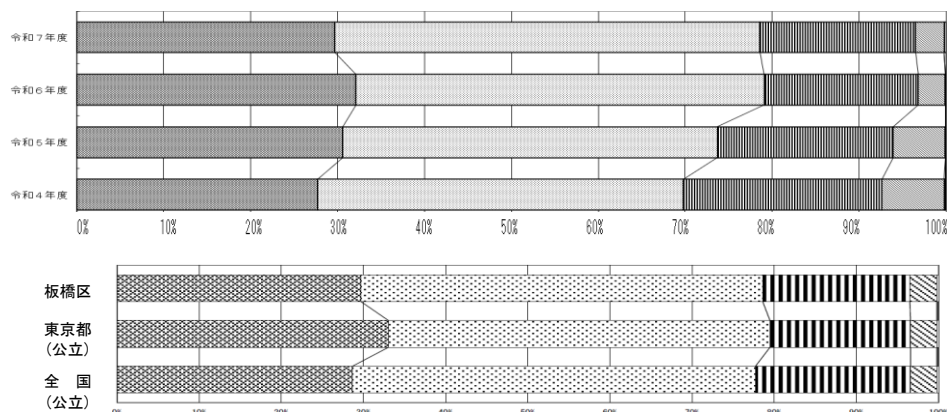
東京都 ≡ 板橋区

全国 ≡ 板橋区

受け身の姿勢にとどまる児童には、課題設定や解決の見通しをもたせる指導の充実を図る。

【33】5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。

□1.当てはまる □2.どちらかといえば、当てはまる □3.どちらかといえば、当てはまらない □4.当てはまらない □その他 □無回答



経年変化 →

東京都 ≡ 板橋区

全国 ≡ 板橋区

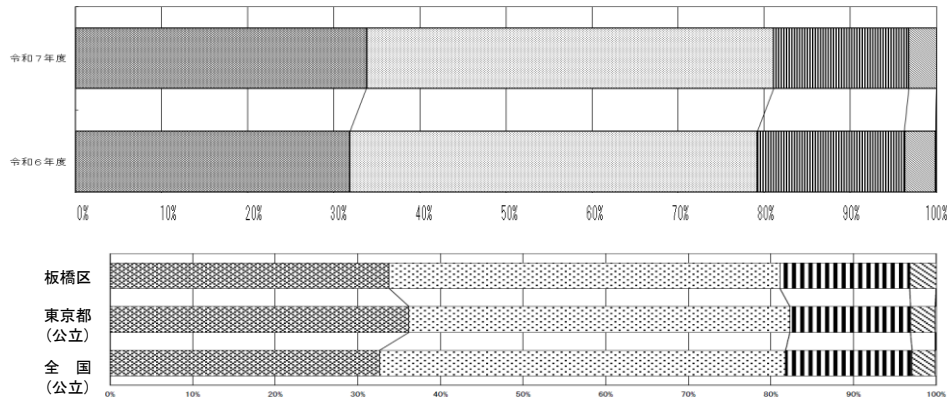
児童が学びのつながりを実感できるよう、教科ごとの学習内容を関連付けて振り返りや活用を設けることが大切である。



## （２）主体的な学習の調整・板橋区授業スタンダードＳ

【16】分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

□1.できている □2.どちらかといえば、できている □3.どちらかといえば、できていない □4.できていない □その他 □無回答



経年変化



東京都



板橋区

全国

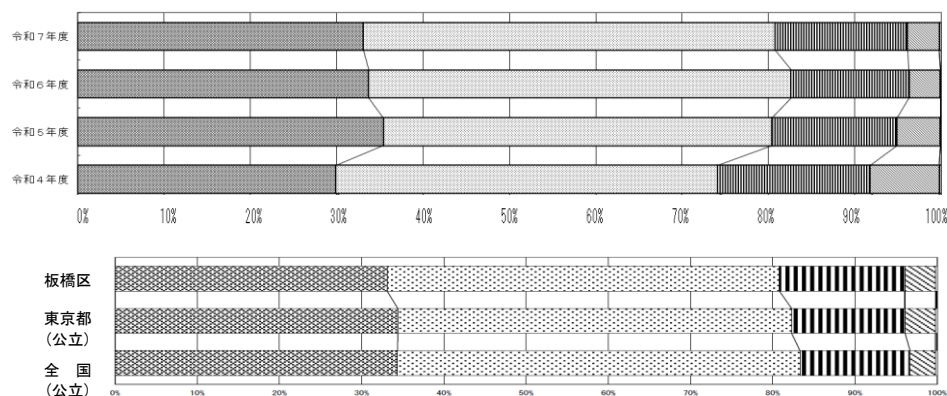


板橋区

児童が自ら学び方を工夫できるよう、課題解決の過程で複数の方法を比較・選択させる授業を工夫することが重要である。

【34】5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。

□1.当てはまる □2.どちらかといえば、当てはまる □3.どちらかといえば、当てはまらない □4.当てはまらない □その他 □無回答



経年変化



東京都



板橋区

全国

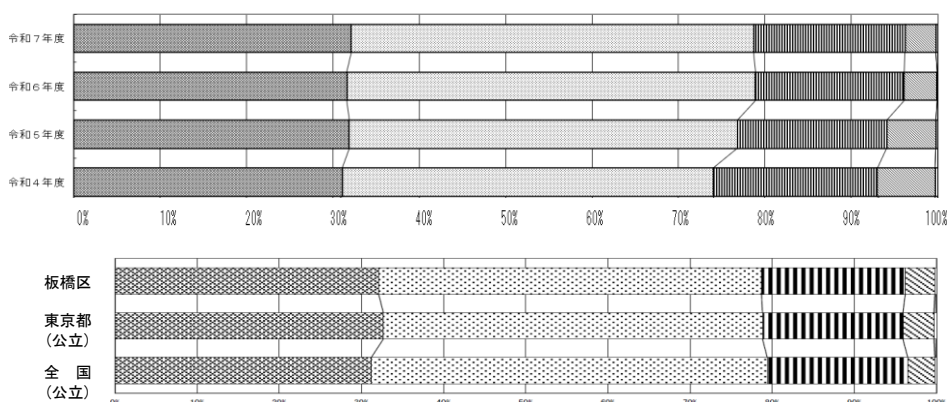


板橋区

児童一人一人の理解度に応じて教材や活動を選択できるようにし、個別最適な学びを保障することが重要である。

【36】学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

□1.当てはまる □2.どちらかといえば、当てはまる □3.どちらかといえば、当てはまらない □4.当てはまらない □その他 □無回答



経年変化



東京都



板橋区

全国



板橋区

授業の終末に振り返りや自己評価の時間を設け、気づきを次の学習課題へと結び付ける活動を体系的に取り入れることが重要である。

### 「板橋区授業スタンダードＳ」の視点からの授業改善

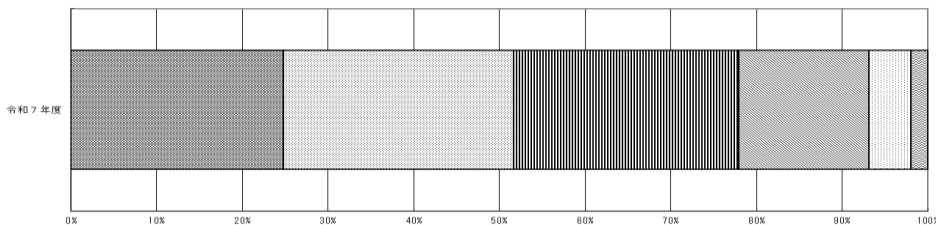
児童が自ら学びを調整できるよう、振り返りで理解した点と課題を明確にし、学び方や教材・時間の選択肢を児童に保障することが大切である。さらに教科横断的な関連付けを図り、学習内容を活用する場を設けることで、主体的に考え工夫して表現する力が育つ。

### (3) いたばし学び支援プラン 2025 3つの柱 GIGA スクール構想

#### ①ICT の活用状況

【28】5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか。

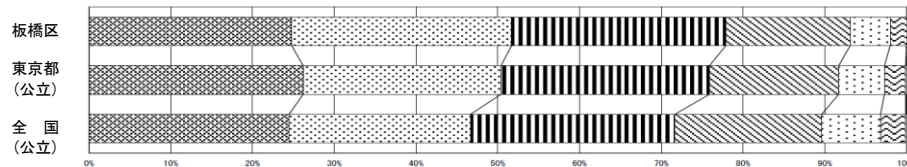
□1.ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用） □2.ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業） □3.週3回以上 □4.週1回以上 □5.月1回以上 □6.月1回未満 □その他 □無回答



経年変化 初

東京都 < 板橋区

全国 < 板橋区



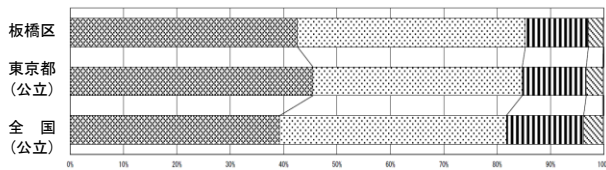
全体的な使用頻度で比較すると、東京都や全国を上回っているといえる。

#### ②ICT を活用する自信

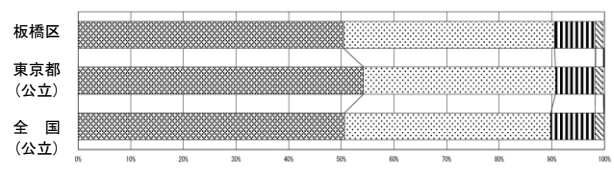
【29】あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って以下のことができますか。

□1. とてもそう思う □2. そう思う □3. あまりそう思わない □4. そう思わない □その他 □無回答

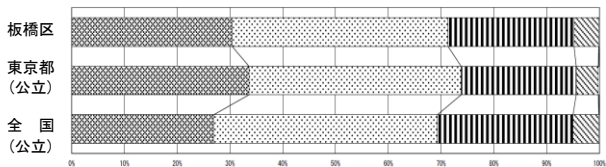
文章を作成する（文字、コメントを書くなど）



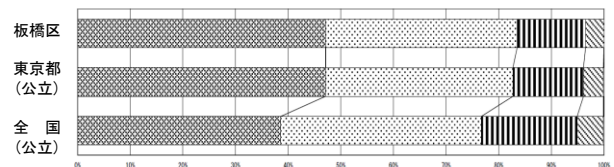
インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）



情報を整理する（図、表、グラフ・思考ツールなどを使ってまとめる）



学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する



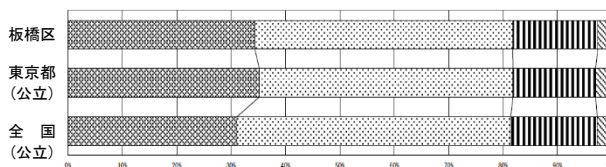
・約8割の児童が ICT 機器で「文章を作成する（文字、コメントを書くなど）」ことができる、約9割の児童が「インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）」ことができると考えている。  
・すべての項目において、肯定的な回答をした児童の割合は、全国を上回っている。

#### ③ICT 機器活用の効力感

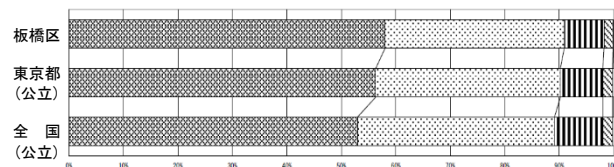
【30】5年生までの学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することについて、以下のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。

□1. とてもそう思う □2. そう思う □3. あまりそう思わない □4. そう思わない □その他 □無回答

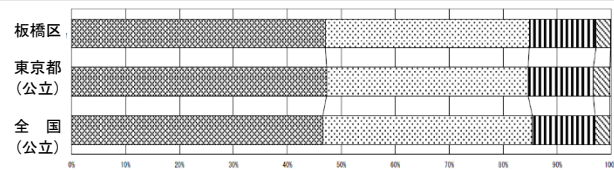
自分のペースで理解しながら学習を進めることができる



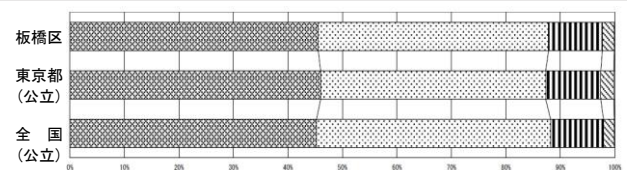
分からないことがあった時に、すぐ調べることができる



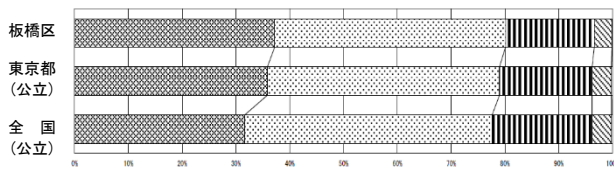
#### 楽しみながら学習を進めることができる



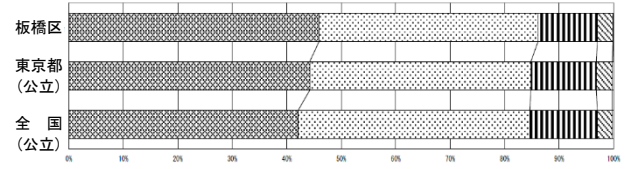
#### 画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる



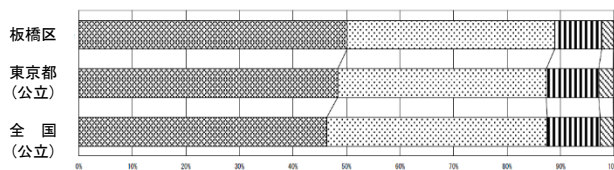
#### 自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる



#### 友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる



#### 友達と協力しながら学習を進めることができる



### 「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」を実現するための一人一台端末の活用

学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することについて、どの質問項目でも8割以上の児童が肯定的な回答をしている。課題の解決に向けて自分で考え、自分から学習に取り組んだ児童の正答率が高い傾向があることから、学習の中で、児童が自分の必要感に応じて一人一台端末を活用したり、友達のことを参考にしたりできるような学習方法の工夫が必要である。また、児童が一人一台端末を使いこなすための情報活用能力や情報モラルの育成にも取り組んでいく必要がある。

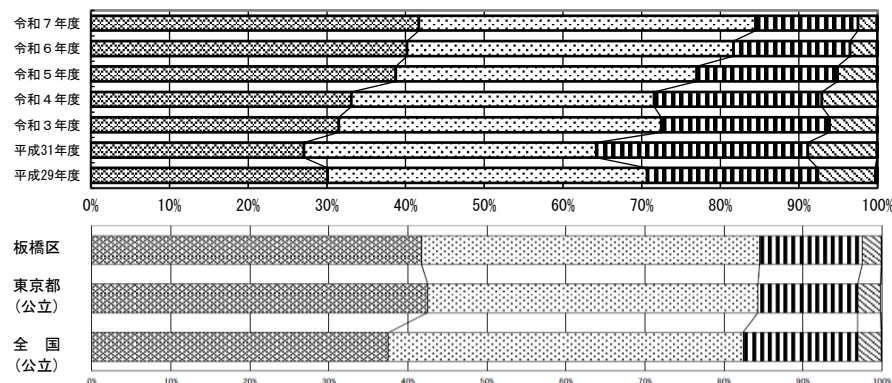
【参考】「板橋区 児童・生徒の情報活用能力育成の指標」(教員用 GIGA ポータルサイト等に掲載)



## （４）授業革新の要 総合的な学習の時間の充実

【40】総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



経年変化



東京都



板橋区

全国

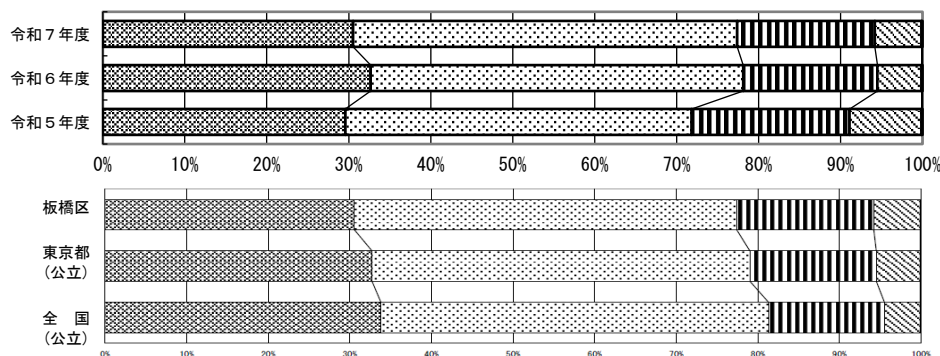


板橋区

探究のサイクルを取り入れた総合的な学習の時間の取組が、年々充実している。

【27】地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



経年変化



東京都



板橋区

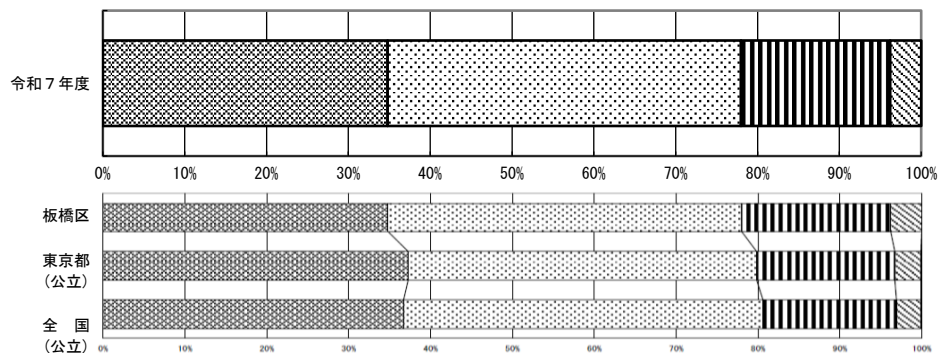
全国



板橋区

【25】これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか。

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



経年変化

初

東京都



板橋区

全国



板橋区

総合的な学習の時間で課題を設定し、情報を集め発表まで行う児童ほど、『地域や社会をよくするために何かしてみたい』という意識との間に正の相関がみられる。これは、探究的な学びが単なる知識習得にとどまらず、児童が自らの学びを公共や地域に役立てたいと考える契機となっていることを示している。

## (5) 学級活動

【41】あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



経年変化

→

東京都

<

板橋区

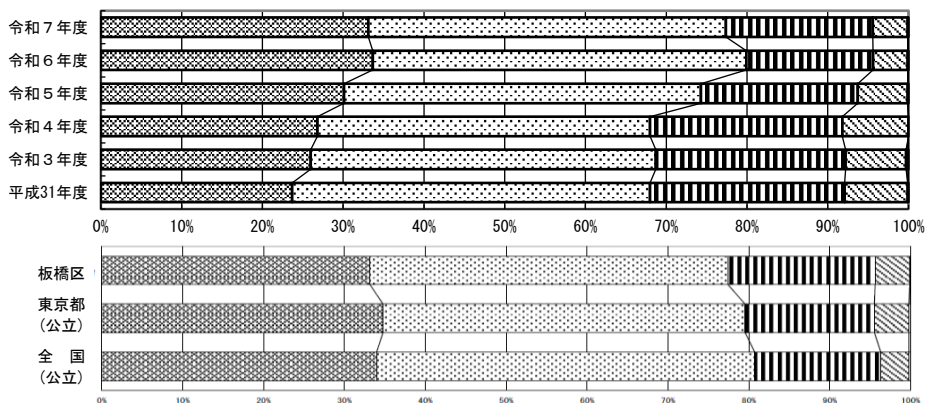
全国

≡

板橋区

【42】学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



経年変化

→

東京都

≡

板橋区

全国

≡

板橋区

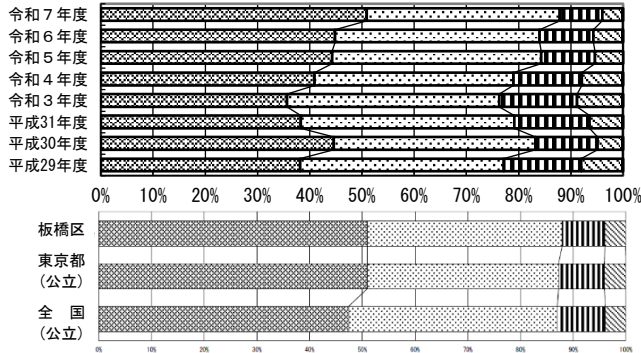
学級会での話し合いや、それを基にした自己の努力目標設定に取り組んでいる児童は、友達との対話や道徳・学級活動での話し合いなど、他者との協働を通じて考えを深める活動と強い正の相関を示している。これは、学級内での話し合い活動が単なる意見交換にとどまらず、児童が自己の課題を意識し努力する契機となっていることを示していると考えられる。話し合いを基盤とした学級経営は、協働的に問題解決する力と自己で調整して学習する力の双方を育む役割を果たしている。

## (6) ウェルビーイングの向上

### 【5】自分には、よいところがある。

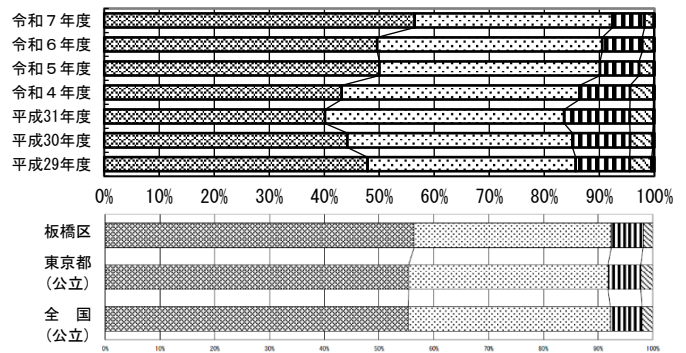
経年変化 → 東京都 ≡ 板橋区 全国 ≡ 板橋区

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



### 【6】先生は、あなたのよいところを認めてくれている。

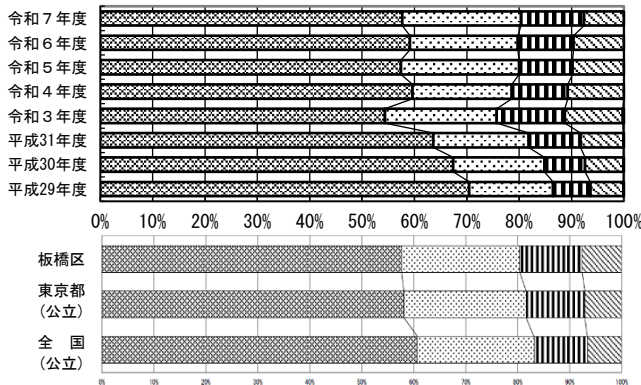
経年変化 → 東京都 ≡ 板橋区 全国 ≡ 板橋区



### 【7】将来の夢や目標を持っている。

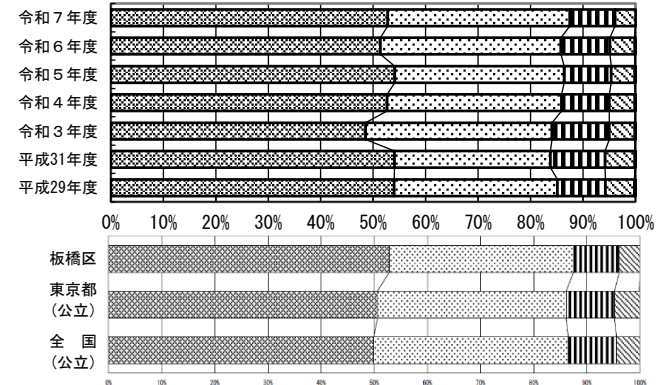
経年変化 → 東京都 ≡ 板橋区 全国 ≡ 板橋区

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



### 【12】学校に行くのは楽しいと思う。

経年変化 → 東京都 ≡ 板橋区 全国 ≡ 板橋区



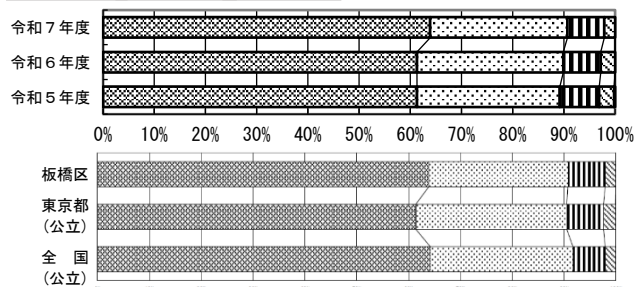
### 【14】友達関係に満足している。

経年変化 →

東京都 ≡ 板橋区

全国 ≡ 板橋区

□1. 当てはまる  
□2. どちらかといえば、当てはまる  
□3. どちらかといえば、当てはまらない  
□4. 当てはまらない  
□その他  
□無回答



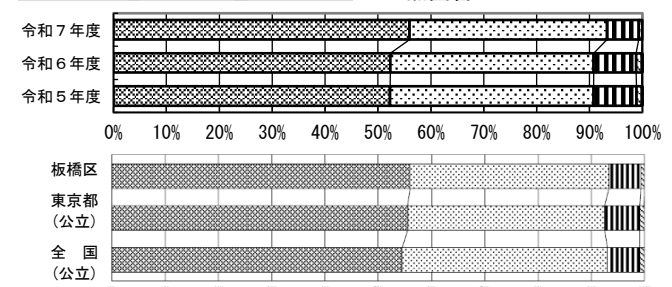
### 【15】普段の生活の中で、幸せな気持ちになること。

経年変化 →

東京都 ≡ 板橋区

全国 ≡ 板橋区

□1. よくある  
□2. ときどきある  
□3. あまりない  
□4. 全くない  
□その他  
□無回答



【6】教師の承認と【5】自己肯定感(相関係数0.42)、【12】学校生活の楽しさ(相関係数0.35)には相関関係があり、【14】友人関係の満足と【15】幸福感(相関係数0.38)、【12】学校生活の楽しさ(相関係数0.36)にも相関関係がある。このことから、特に「教師の承認」と「友人関係の満足」が核となり、幸福感に大きく寄与していると考えられる。授業や学校行事において「児童のよいところを見つけて伝える教師の働きかけ」と「友達同士が認め合える活動(協働学習・対話)」を意識的に設計することが、幸福感と学習意欲の向上に直結すると言える。

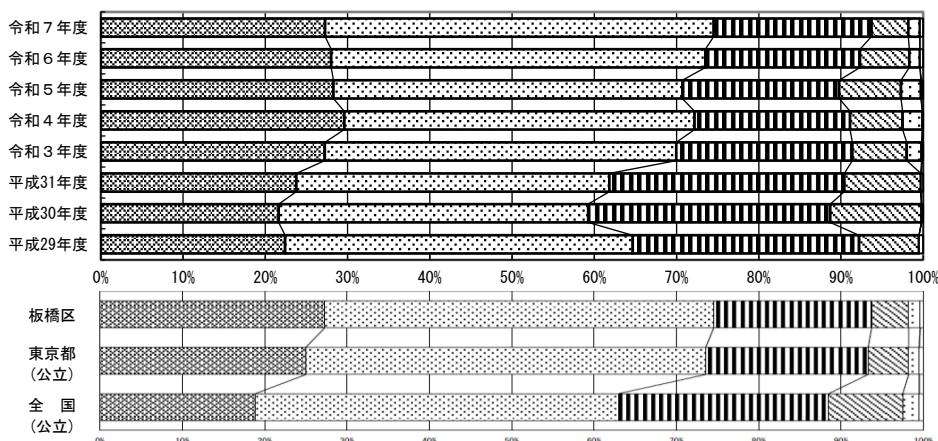
# 生徒質問調査

## 1 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況

### (1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

【31】1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

□1.発表していた □2.どちらかといえば、発表していた □3.どちらかといえば、発表していなかった □4.発表していなかった □5.考えを発表する機会はなかった □その他 □無回答



経年変化



東京都

≡

板橋区

全国

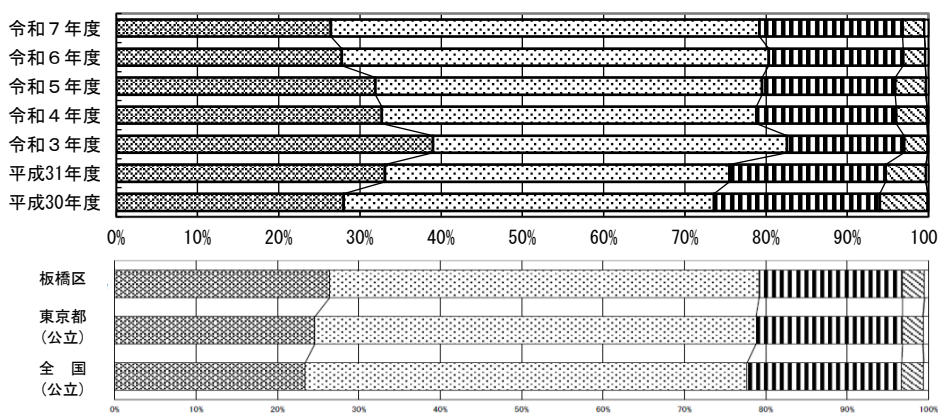
<

板橋区

経年で肯定的回答が増加し、全国・都平均よりも高い水準にあり、児童が発表の工夫を意識的に行っている姿が定着してきている。

【32】1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

□1.当てはまる □2.どちらかといえば、当てはまる □3.どちらかといえば、当てはまらない □4.当てはまらない □その他 □無回答



経年変化



東京都

≡

板橋区

全国

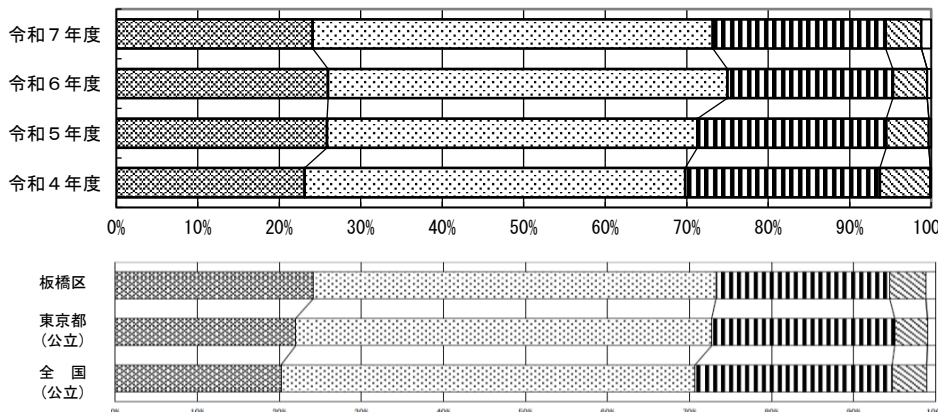
≡

板橋区

生徒は課題解決に向け自ら考え主体的に取り組む姿勢が着実に育ってきており、全国・東京都と同水準で安定的に定着している。

【33】1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。

□1.当てはまる □2.どちらかといえば、当てはまる □3.どちらかといえば、当てはまらない □4.当てはまらない □その他 □無回答



経年変化



東京都

≡

板橋区

全国

≡

板橋区

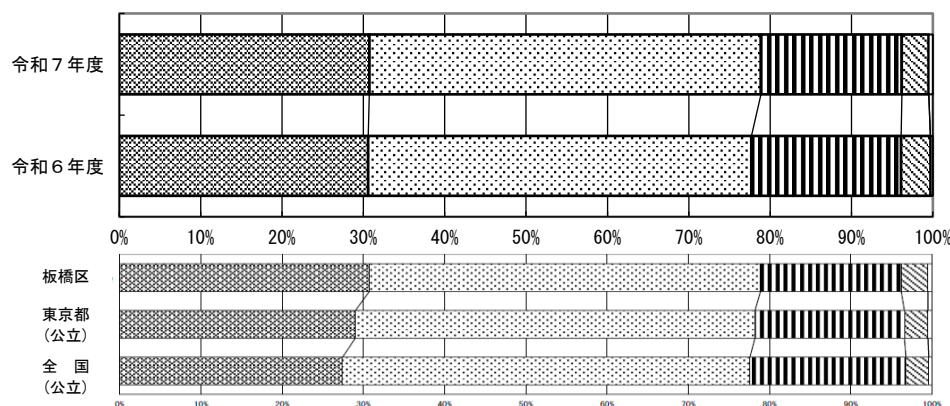
「総合的な学習の時間」で教科横断的に知識を活用して調べ、まとめ、発表する活動を通じて、教科で学んだ知識を活かす実践が積み重ねられている。



## (2) 主体的な学習の調整・板橋区授業スタンダードS

【16】分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

□1.できている □2.どちらかといえば、できている □3.どちらかといえば、できていない □4.できていない □その他 □無回答



経年変化 →

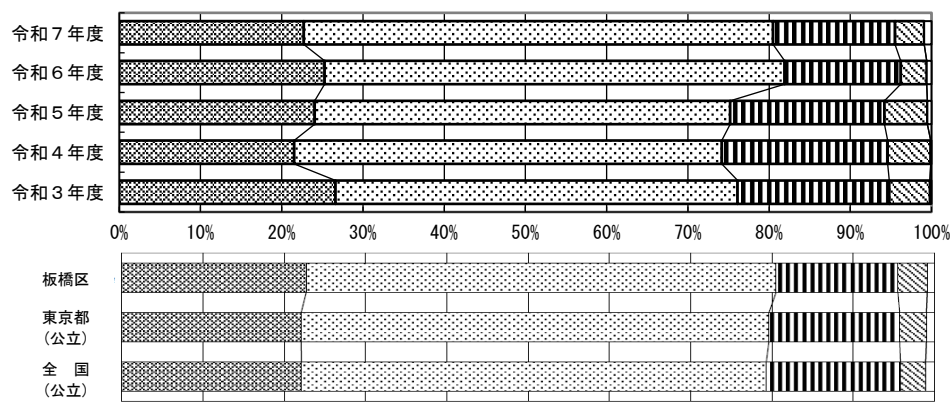
東京都 ≡ 板橋区

全国 ≡ 板橋区

自ら学び方を工夫できるようにするには、学習の見通しを立てる機会、学び方の多様なモデル、ICTを活用した手段の選択、そして振り返りによるメタ認知を授業の中で意図的に組み込むことが重要である。

【34】1,2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。

□1.当てはまる □2.どちらかといえば、当てはまる □3.どちらかといえば、当てはまらない □4.当てはまらない □その他 □無回答



経年変化 →

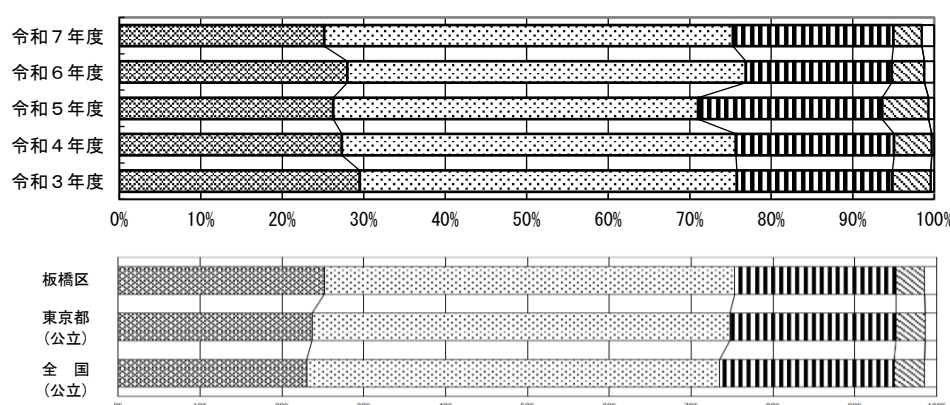
東京都 ≡ 板橋区

全国 ≡ 板橋区

経年で肯定的回答が増加し、全国・都と同水準で推移していることから、一人ひとりに応じた授業改善の取組が一定の成果をあげつつあると言える。

【36】学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

□1.当てはまる □2.どちらかといえば、当てはまる □3.どちらかといえば、当てはまらない □4.当てはまらない □その他 □無回答



経年変化 →

東京都 ≡ 板橋区

全国 ≡ 板橋区

肯定的回答が増加し、全国・都と同水準で推移していることから、振り返りを通して学習を次に生かす姿勢が一定程度育まれていると言える。

### 「板橋区授業スタンダードS」の視点からの授業改善

生徒が、自分に合った学び方を選び、課題に応じて工夫し、振り返りを通じて次に生かす一連の学習サイクルを授業に組み込むことが重要である。そのために、複数の学習方法の提示や ICT 活用による学び方の選択、学習後の振り返りを重視することで、生徒が自ら学習を調整し、主体的に学びを深める力を育成できる。

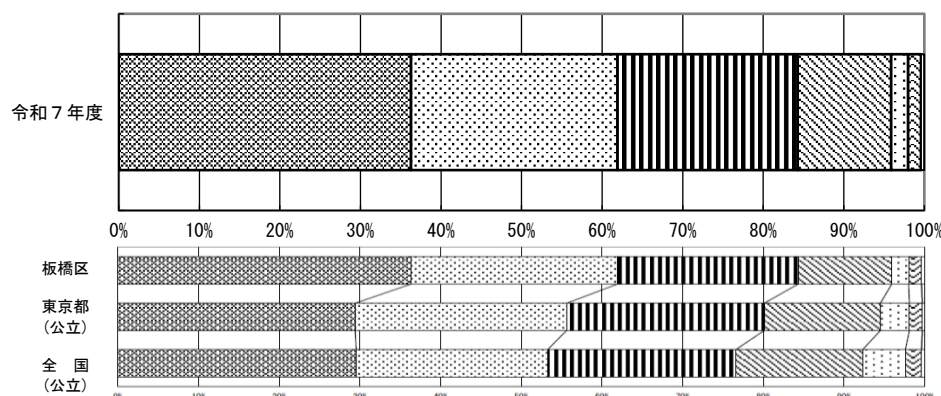


### (3) いたばし学び支援プラン 2025 3つの柱 GIGA スクール構想

#### ①ICT の活用状況

【28】1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか。

□1.ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用） □2.ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業） □3.週3回以上 □4.週1回以上 □5.月1回以上 □6.月1回未満 □その他 □無回答



経年変化 初

東京都 << 板橋区

全国 << 板橋区

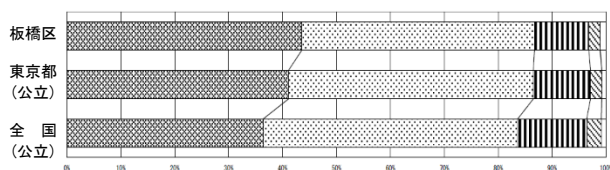
全体的な使用頻度で比較すると、東京都や全国を上回っているといえる。

#### ②ICT を活用する自信

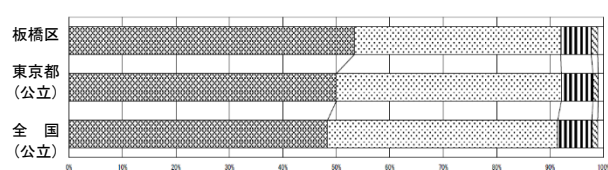
【29】あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って以下のことができますか。

□1.とてもそう思う □2.そう思う □3.あまりそう思わない □4.そう思わない □その他 □無回答

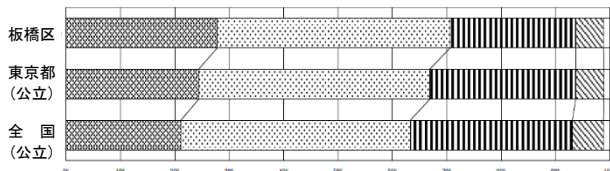
文章を作成する（文字、コメントを書くなど）



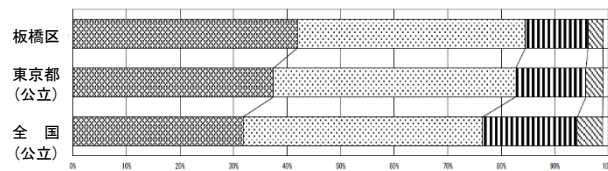
インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）



情報を整理する（図、表、グラフ・思考ツールなどを使ってまとめる）



学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する



・約8割の生徒が ICT 機器で「文章を作成する（文字、コメントを書くなど）」「プレゼンテーション（発表のスライド）を作成する。」ことができる、約9割の児童が「インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）」ことができると考えている。

・すべての項目において、肯定的な回答をした生徒の割合は、全国を上回っている。

#### 「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」を実現するための一人一台端末の活用

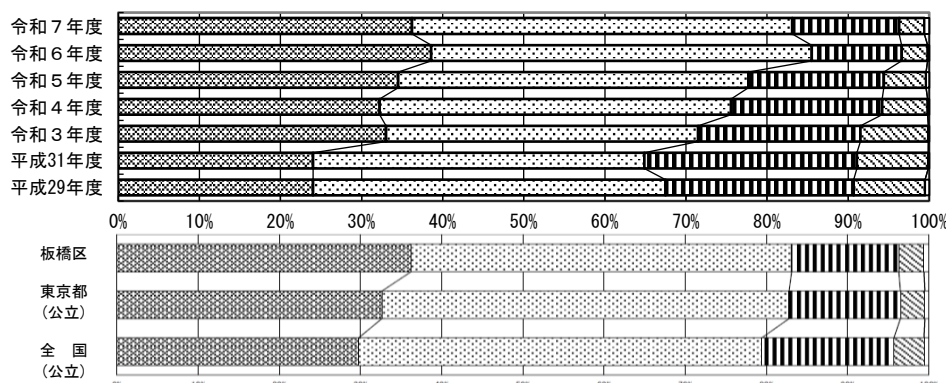
学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することについて、どの質問項目でも8割以上の生徒が肯定的な回答をしている。今後も継続して、生徒が ICT を自らの学習道具として主体的に使える力を育むことが重要である。結果から、情報収集や資料作成など基本操作には一定の習熟がある一方、協働的な活用や思考の可視化には課題が見られる。そこで、端末を個別学習の補助にとどめず、共同編集や意見交流、探究活動での整理・発信に生かす仕組みを整える必要がある。教員は授業設計段階から ICT を組み込み、生徒の到達度や関心に応じて課題を提示しつつ、協働的な対話や創造へと導く工夫が求められる。端末活用を「学びの質の向上」と常に結び付けていくことが鍵となる。

【参考】「板橋区 児童・生徒の情報活用能力育成の指標」（教員用 GIGA ポータルサイト等に掲載）

## (4) 授業革新の要 総合的な学習の時間の充実

【40】総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



経年変化

→

東京都

≡

板橋区

全国

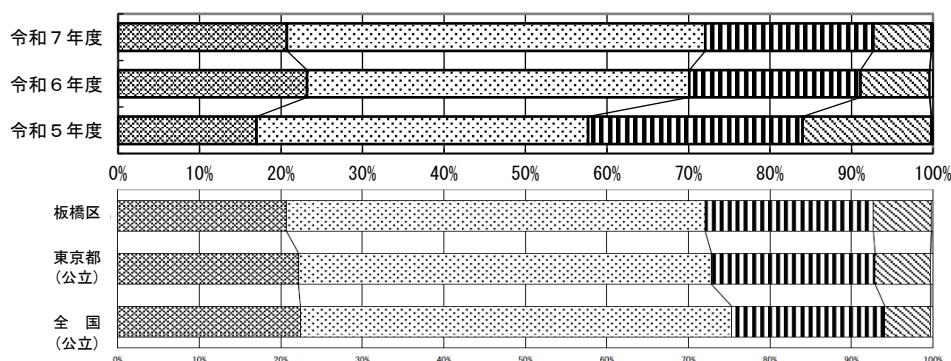
≡

板橋区

課題設定→情報収集→整理・分析→発表→振り返りという探究のサイクルが着実に根付き、児童の主体的な学びが定着してきた。

【27】地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



経年変化

↗

東京都

≡

板橋区

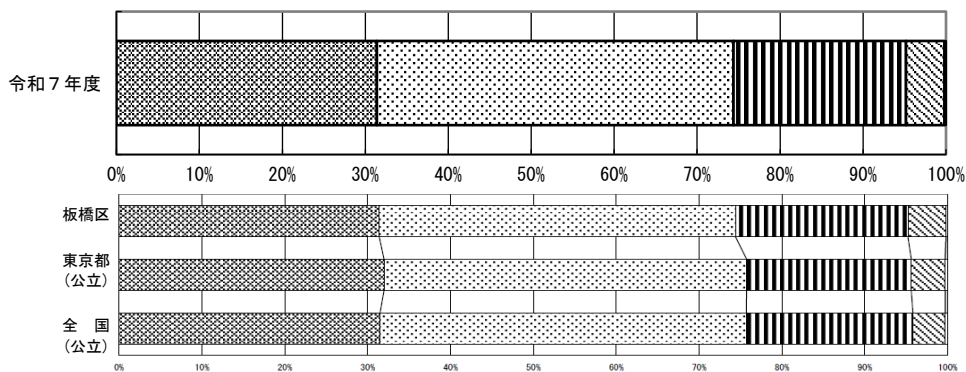
全国

>

板橋区

【25】これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



経年変化

初

東京都

≡

板橋区

全国

≡

板橋区

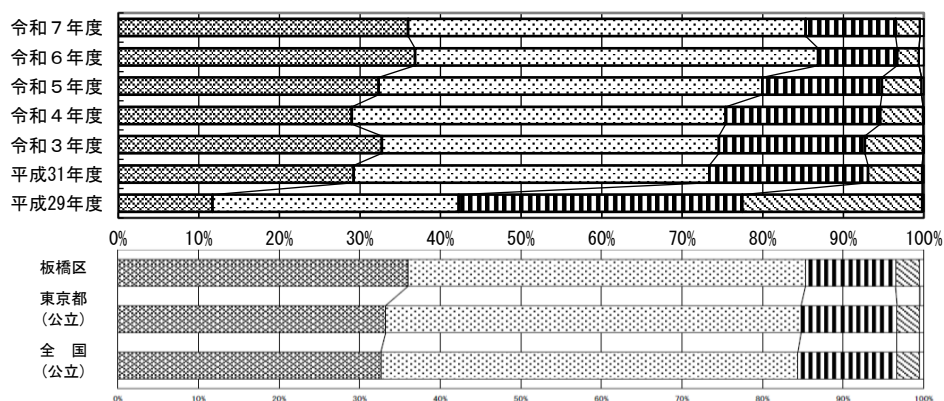
【40】と【27】に正の相関がある(相関係数0.32)ことから、探究的な学びの経験が、地域や社会貢献への意欲と結びついていることが分かる。

また、自ら課題を設定し調べ発表する学びは、社会とのつながりを意識する姿勢を育てていると考えられる。

## (5) 学級活動

【41】あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



経年変化



東京都



板橋区

全国

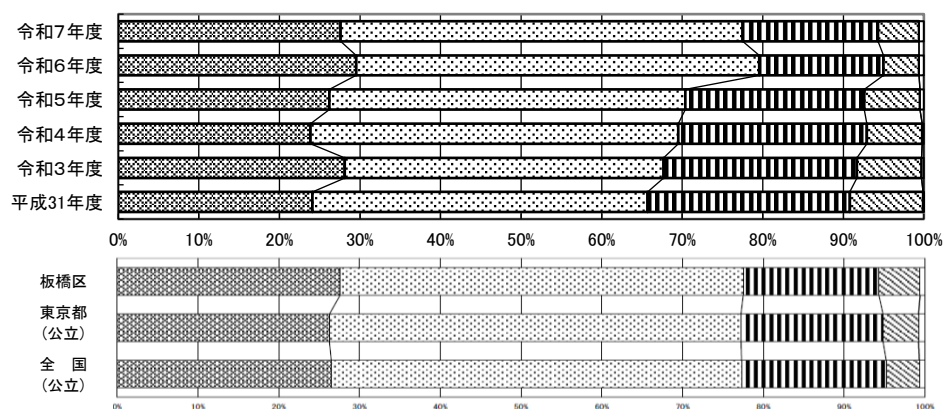


板橋区

学級会での話し合い活動が定着してきており、互いの意見を生かした協働的な問題解決の力が育まれている。

【42】学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



経年変化



東京都



板橋区

全国



板橋区

学級会での話し合いを基に、自己の努力目標を立てることは定着が進み、全国・東京都と同水準で安定している。

【42】「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。」は、【8】「人が困っているときは、進んで助けている」(相関係数 0.38)、【12】「学校に行くのは楽しいと思う」(相関係数 0.31) など強い相関が見られる。これらの結果は、学級会での話し合いを生かした活動が、児童の自己目標設定や行動化につながるだけでなく、学級全体の課題解決や友人関係、学校生活への満足感といった広い側面に波及していることを示唆している。つまり、学級活動の充実、個々の努力意識を喚起すると同時に、学級集団の協働性や学校生活全般の満足度を高める基盤となっていると考えられる。

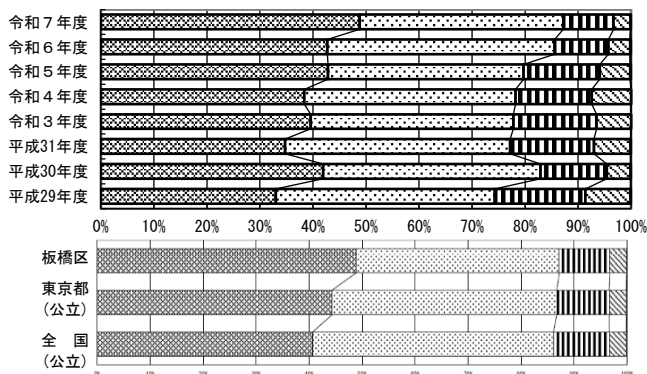


## (8) ウェルビーイングの向上

【5】自分には、よいところがある。

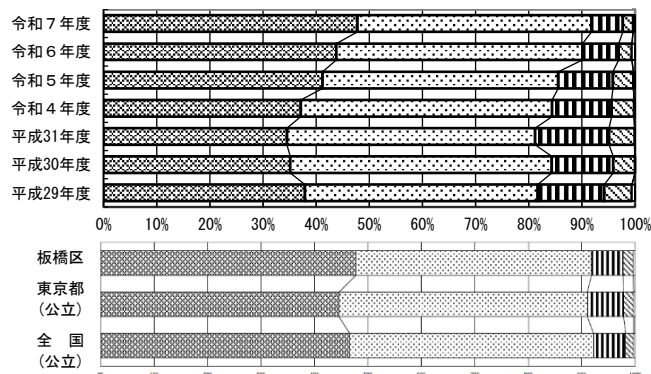
経年変化 東京都 板橋区 全国 板橋区

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



【6】先生は、あなたのよいところを認めてくれている。

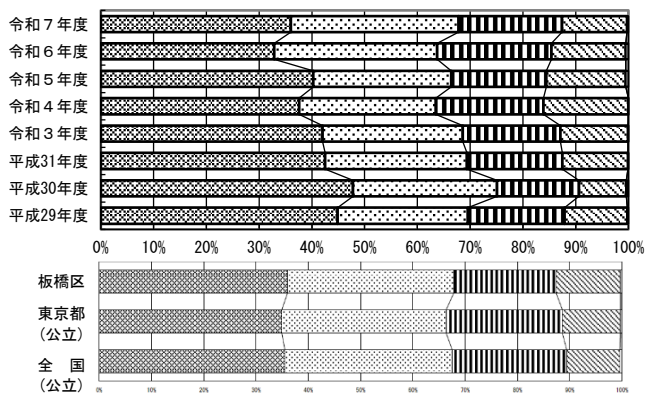
経年変化 東京都 板橋区 全国 板橋区



【7】将来の夢や目標を持っている。

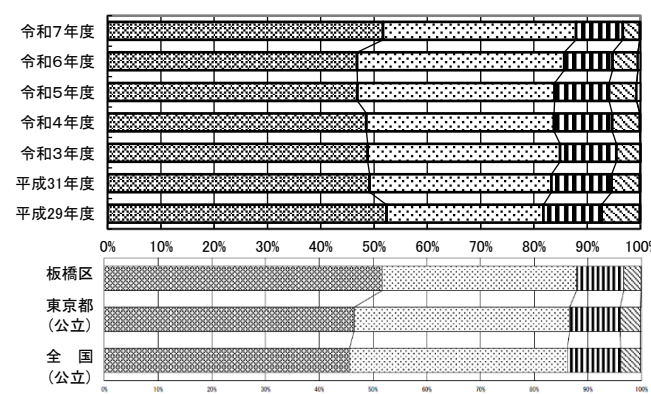
経年変化 東京都 板橋区 全国 板橋区

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



【12】学校に行くのは楽しいと思う。

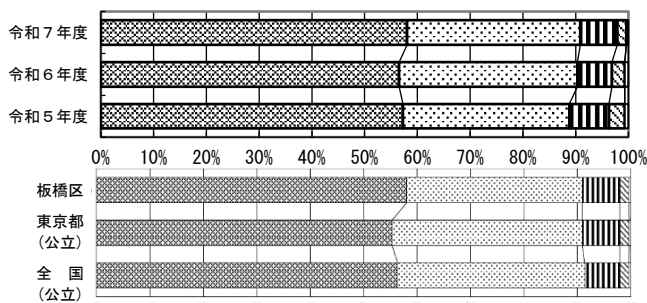
経年変化 東京都 板橋区 全国 板橋区



【14】友達関係に満足している。

経年変化 東京都 板橋区 全国 板橋区

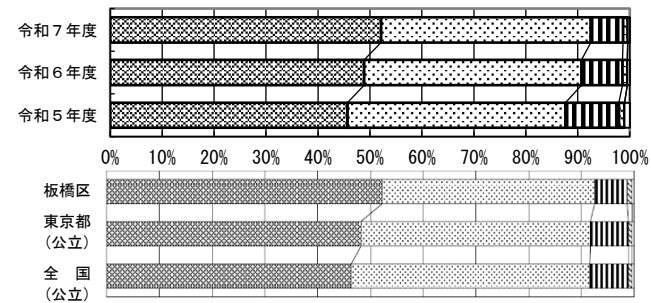
□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



【15】普段の生活の中で、幸せな気持ちになること。

経年変化 東京都 板橋区 全国 板橋区

□1. よくある □2. ときどきある □3. あまりない □4. 全くない □その他 □無回答



「自分にはよいところがある」と感じ、それを「先生に認められている」という経験は、自己肯定感を高める。さらに「将来の夢や目標」を持つことは、学びや生活の目的意識を支える。こうした自己の存在や未来への展望が、学校生活の楽しさや友人関係の満足感、日常における幸福感へとつながる。つまり、個の承認と目標意識が、学校や仲間との関わりを高め、日常の幸福感を醸成する循環となっている。

そこで、教師は、生徒のよさを認め、未来につながる学びを支え、安心できる学級を築き、挑戦できる環境と生徒の幸福感を保障する必要がある。

## **IV 学校質問調査に関する調査結果**

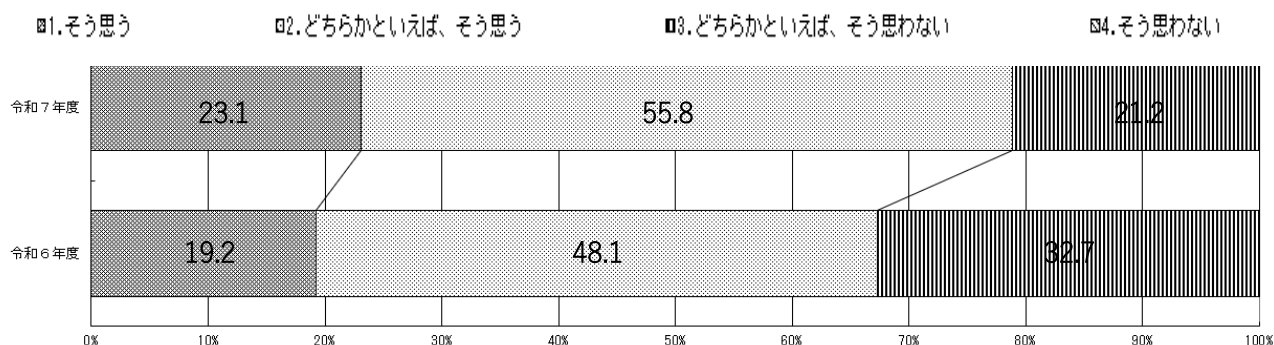
# IV 学校質問紙に関する調査結果（全国との比較からみた分析・経年変化）

## 1 小学校

### 主体的・対話的で深い学び／授業スタンダードSについて

(29) 調査対象学年の児童は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか。（％）		そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない
	区	23.1	55.8	21.2	0.0
	都	17.1	56.4	25.2	1.1
	国	11.0	53.1	33.7	2.1

【（29）の質問における板橋区の経年変化】



(31) 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか。（％）		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行わなかった	全く行わなかった
	区	48.1	44.2	7.7	0.0
	都	41.1	55.7	3.1	0.1
	国	34.9	60.4	4.6	0.0

(32) 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。（％）		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行わなかった	全く行わなかった
	区	42.3	53.8	3.8	0.0
	都	40.4	53.1	6.4	0.1
	国	31.6	58.3	10.0	0.1

(63) 調査対象学年の児童が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。		ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上	月1回以上	月1回未満
	区	17.3	34.6	32.7	15.4	0.0
	都	24.8	35.1	28.3	10.2	1.5
	国	19.5	31.5	31.1	13.4	4.3

- ・（29）の質問の経年変化から、板橋区授業スタンダードSの実践が推進されていると考えられる。
- ・（32）の質問に対して肯定的な回答をした小学校の割合が全国平均や東京都平均よりも高い。
- ・一人一台端末を活用した自己調整学習はある程度実施できているが、東京都平均に比べると割合は低い。

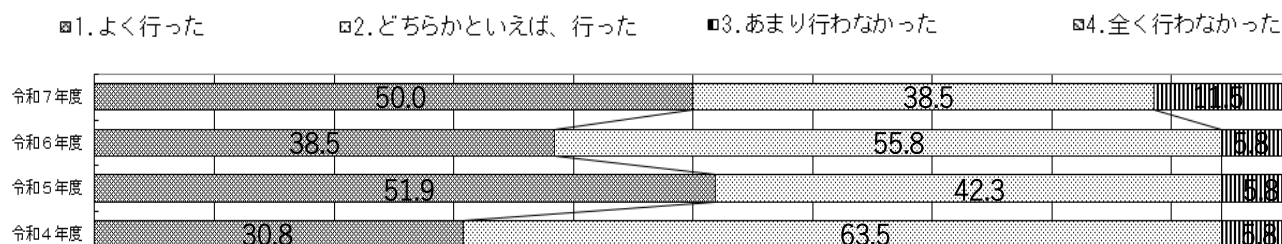
#### 今後に向けたポイント

- ① 引き続き、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善に取り組むとともに、板橋区授業スタンダードSの実践を推進していく。
- ② 児童が自己選択、自己決定、自己調整する学習に、一人一台端末を効果的に取り入れられるようにする。

小中一貫教育／コミュニティ・スクールについて

(72) 前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか。（％）		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行わなかった	全く行わなかった
	区	50.0	38.5	11.5	0.0
	都	22.7	53.1	20.8	3.3
	国	20.5	44.8	27.6	7.1

【（72）の質問における板橋区の経年変化】



(77) コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まりましたか。（％）		そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	取組を行わなかった
	区	55.8	40.4	3.8	0.0	0.0
	都	39.9	52.7	3.4	0.6	3.4
	国	40.2	53.1	3.0	0.2	3.4

(78) コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組は、「社会に開かれた教育課程」の実現に効果がありましたか。（％）		そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	取組を行わなかった
	区	55.8	38.5	5.8	0.0	0.0
	都	40.0	52.4	3.5	0.5	3.6
	国	38.7	53.9	3.5	0.3	3.5

(79) コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組は、教員の業務負担軽減に効果がありましたか。（％）		そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	取組を行わなかった
	区	34.6	53.8	11.5	0.0	0.0
	都	16.9	42.1	29.3	7.7	3.9
	国	14.7	47.2	27.7	6.8	3.7

- ・（72）の質問の回答状況から、全国や東京都の平均より高い割合で、小中一貫教育が実施されていると考えられる。
- ・（77）の質問の回答状況から、コミュニティ・スクール等の活動により、学校と地域や保護者の相互理解が進んでいると考えられる。
- ・（79）の質問の回答状況から、コミュニティ・スクール等の取組は、教員の業務負担軽減に成果をあげていると考えられる。

今後に向けたポイント

- ① 中学校と目的を共有し、学びのエリア研修を実施する。目的を明確にしたコミュニティ・スクールを継続する。
- ② 学校と地域や保護者の相互理解が深められるように、また、教員の働き方改革の視点からも、継続してコミュニティ・スクールについて教員の意識を高める。

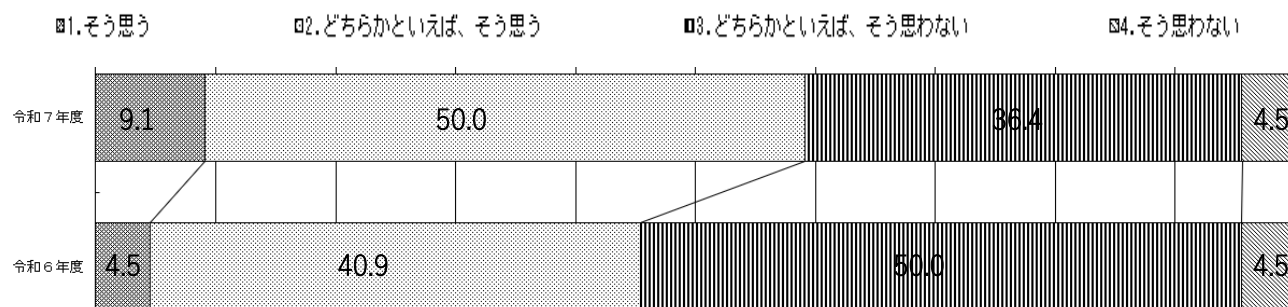
# IV 学校質問紙に関する調査結果（全国との比較からみた分析・経年変化）

## 1 中学校

### 主体的・対話的で深い学び／授業スタンダードSについて

		そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない
(29) 調査対象学年の生徒は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか。（％）	区	9.1	50.0	36.4	4.5
	都	12.7	51.5	32.6	3.2
	国	9.0	47.6	40.2	3.2

【（29）の質問における板橋区の経年変化】 数値は割合（％）



		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行わなかった	全く行わなかった
(31) 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか。（％）	区	50.0	45.5	4.5	0.0
	都	34.4	59.7	5.5	0.3
	国	32.7	62.3	4.9	0.1

		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行わなかった	全く行わなかった
(32) 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。（％）	区	45.5	50.0	4.5	0.0
	都	32.6	56.7	10.3	0.2
	国	27.5	58.6	13.6	0.2

		ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上	月1回以上	月1回未満
(63) 調査対象学年の生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。（％）	区	13.6	40.9	27.3	9.1	9.1
	都	17.0	28.4	32.0	18.1	4.6
	国	16.6	24.6	30.9	19.2	8.6

- ・（29）の質問の経年変化から、板橋区授業スタンダードSの実践が推進されていると考えられる。
- ・（31）（32）の質問に対して、「よく行った」と回答をした中学校の割合が全国平均や東京都平均を大きく上回っている。
- ・（63）の質問の回答状況から、一人一台端末を活用した自己調整学習を半数以上の学校が週3回以上実施している。

#### 今後に向けたポイント

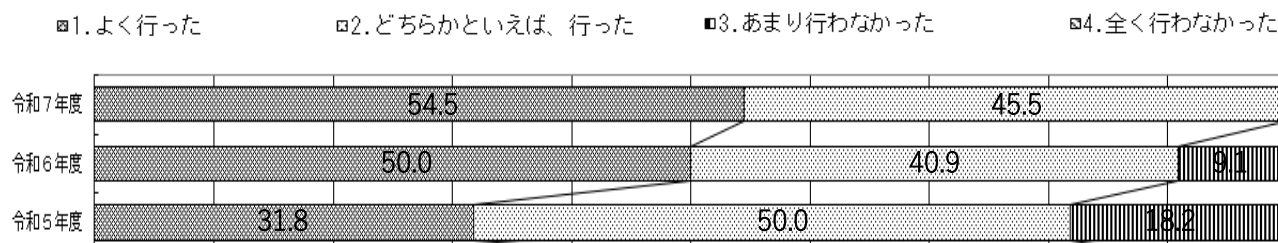
- ① 引き続き、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善に取り組むとともに、板橋区授業スタンダードSの実践を推進していく。
- ② 一人一台端末の活用を推進するとともに、自己調整学習の中にも効果的に取り入れられるようにする。



# 学校質問紙に関する調査結果（中学校）

(72) 前年度までに、近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか。（％）		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行わなかった	全く行わなかった
	区	54.5	45.5	0.0	0.0
	都	31.7	47.5	18.1	2.5
	国	28.3	43.4	22.1	6.2

【（72）の質問における板橋区の経年変化】 数値は割合（％）



(77) コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まりましたか。（％）		そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	取組を行わなかった
	区	31.8	63.6	4.5	0.0	0.0
	都	33.0	57.4	5.7	0.5	3.5
	国	31.8	57.2	4.8	0.6	5.6

(78) コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組は、「社会に開かれた教育課程」の実現に効果がありましたか。（％）		そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	取組を行わなかった
	区	54.5	45.5	0.0	0.0	0.0
	都	32.0	56.6	7.3	0.6	3.3
	国	29.5	57.5	6.5	0.7	5.7

(79) コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組は、教員の業務負担軽減に効果がありましたか。（％）		そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	取組を行わなかった
	区	18.2	31.8	45.5	4.5	0.0
	都	14.6	36.3	33.9	11.4	3.8
	国	10.3	39.5	33.2	11.0	5.9

- ・（72）の質問の経年変化から、小中一貫教育の推進が図られていると考えられる。
- ・（78）の質問の回答状況から、コミュニティ・スクール等の活動は、「社会に開かれた教育課程」の実現に寄与していると考えられる。
- ・（79）の質問の回答状況から、コミュニティ・スクール等の取組は、教員の業務負担軽減に成果をあげていると考えられる。

## 今後に向けたポイント

- ① 小学校と目的を共有し、学びのエリア研修を実施する。目的を明確にしたコミュニティ・スクールを継続する。
- ② 学校と地域や保護者の相互理解が深められるように、また、教員の働き方改革の視点からも、継続してコミュニティ・スクールについて教員の意識を高める。

## V まとめ

## V まとめ

令和 7 年度 全国学力・学習状況調査では、各教科において、基礎的な知識・技能の定着度だけでなく、それらを活用して課題を解決する思考力・判断力・表現力を測る問題が重視された。特に、実社会や日常生活と関連付けた問題が多く出題されている。

### 1 国語

#### 【小学校】

- ・目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討し、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら聞き、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題。
- ・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、図表を用いるなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題。

#### 【中学校】

- スピーチで考えを提案する場面において、次のことができるかどうかをみる問題。
  - ・資料や機器を用いた話し方の工夫を捉えること。
  - ・相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。
  - ・自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫すること。
  - ・資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。

### 2 算数・数学

#### 【小学校】

- ・日常の事象について、目的に応じて表やグラフからデータの特徴や傾向を捉え考察できるかどうかをみる問題。
- ・日常生活の問題を解決するために、伴って変わる二つの数量を見だし、それらの関係について考察できるかどうかをみる問題。

#### 【中学校】

- 不確定な事象を考察する場面において、次のことができるかどうかをみる問題。
  - ・事象に即して解釈したことを数学的に表現すること。
  - ・数や式、図、表などを活用して、数学的に処理すること。
  - ・事象を数学的に解釈し、その根拠を数学的な表現を用いて説明すること。
- 日常生活の中にある関数関係を見い出し、考察する場面において、次のことができるかどうかをみる問題。
  - ・数学的に表現したことを事象に即して解釈すること。
  - ・事象の特徴を的確に捉えること。
  - ・問題解決の方法を数学的に説明すること。

### 3 理科（中学校は、CBT 方式）

#### 【小学校】

- ・自然の性質や規則性を適用したものづくりについて、学習したことを活用したり、解決の方法を発想したりしながら、問題を解決できるかどうかをみる問題。
- ・水の温まり方について、解決の方法を発想しながら問題を解決できるか、水に関する知識を概念的に理解しているかどうかをみる問題。

#### 【中学校】（CBT）

- ・水について科学的に探究する場面において、日常生活や社会と関連付けながら水に関する

事象を多面的、総合的に捉え、理科の見方・考え方を働かせて、これまで学習した理科の知識及び技能を活用することができるかどうかをみる問題。

- ・身近な電化製品の電気回路について科学的に探究する場面において、量的・関係的な見方を働かせて、電流、電圧、抵抗に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる問題。
- ・ガス警報器の設置場所について科学的に探究する学習場面において、気体の性質に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる問題。

国立教育政策研究所が公表した令和7年度全国学力・学習状況調査の結果は、単に児童生徒の学力水準を示すだけでなく、これからの時代に求められる「生きる力」としての学力を育成するための課題と方向性を明確に示している。今回の調査結果を深く分析すると、以下の2点が浮き彫りになる。

#### 1 知識の「つながり」の欠如と教科横断的な思考の必要性

調査結果は、多くの児童生徒が個別の知識や技能（例：漢字の書き取り、数学の計算）を習得している一方で、それらの知識を統合し、応用する力に課題があることを強く示唆している。これは、知識が教科や單元ごとに断片化しており、教科横断的な視点で物事を捉える力が不足しているためと考えられる。

これらの課題を解決するには、教科の枠を超えた学習を積極的に取り入れる必要がある。例えば、社会科の歴史的出来事を題材に、国語で登場人物の気持ちを推測したり、理科で当時の科学技術について調べたりするような総合的な探究学習をカリキュラムに組み込むことが求められる。

#### 2 「なぜ？」を問い続ける思考プロセスの可視化と評価

今回の調査では、正答に至るまでの思考プロセスを言語化し、論理的に説明する力が弱いことが明らかになった。これは、答えが合っているかどうかだけでなく、「なぜその答えになるのか」という論理的な根拠を問う指導が不足しているためと考えられる。

**プロセス評価の導入**：答えが正しいだけでなく、思考の過程や試行錯誤を評価する「プロセス評価」を授業に導入することも考えられる。具体的には、ポートフォリオ評価（例：学習の過程で作成した作品、メモ、振り返りなどをファイルにまとめ、学習の軌跡や成長を確認する）、自己評価・相互評価（学習者自身がプロセスを振り返ったり、学習者同士で互いの学習の取り組みを評価したりする）、観察・インタビューによる評価（授業中の学習者の行動や発言を観察したり、質疑応答を行うことで、学習過程における理解度や思考プロセスを把握する）などが挙げられる。これにより、児童生徒は結果だけでなく、どのように考えたかを重視するようになる。

**対話を通じた思考の深化**：授業中に「なぜそのように考えたのか、隣の人に説明してみよう」といった発問を繰り返し、自分の考えを言葉にする習慣を付けさせる。他者との対話を通じて、自分の考えを客観的に見つめ直し、論理的思考を深める指導を行う。

**思考ツールの活用**：マインドマップやフローチャート、ベン図など、思考を視覚化するツールを積極的に活用する。これにより、複雑な思考を構造化し、教師や友達と共有しやすくなる。

これらの取組は、単に学力調査の点数を上げることを目的とするものではなく、「社会の急激な変化に対応し、自ら課題を見つけ、解決する力」、すなわち「生きる力」としての学力を育むための本質的な教育改革に繋がる。学校全体でこれらの課題に組織的に取り組み、継続的な検証と改善を行うことが重要であると考えられる。